小矢部市のこれからの学校教育のあり方及び小中学校の望ましい規模・配置等について

【　別　冊　資　料　集　】

７．市内小中学校毎の保護者意見交換会の概要

８．市内中学校区毎の地区意見交換会の概要

９．市民アンケート調査の結果及び別添資料編

小中学校統廃合審議会 小学校保護者意見交換会の要旨録（概要）

（１）開会挨拶
（２）意見交換会の流れ、市民アンケート調査結果・添付資料の説明
（３）意見交換、テーマ別市民アンケート調査結果・添付資料の説明
大テーマ：小矢部市のこれからの学校教育のあり方と学校規模の適正化･適正配置について
小テーマ①これからの学校教育で充実することが望ましいと感じていることについて
②望ましい学校規模（学級数や学級の児童数）について
③望ましい学校配置について
（４）その他意見
（５）閉会挨拶

【　石動小学校　】
◎開催日時　令和元年８月６日（火）　午後７時～午後８時３９分
場　所　　総合会館２Ｆ　第１会議室
出席委員数：８名　　事務局員数：４名　　参加者数：１０名

事前説明：（発言なし）
テーマ１：（発言なし）

テーマ２
①小学校における１学級あたりの望ましい児童数については、３５人以下の学級も難しいと感じるが、もう少し少人数の学級が望ましいと思う。

テーマ３
①アンケートの回答者が６０歳～７０歳が５０％以上を占め、小中学校の保護者世代、私達の確認している内容と乖離しているものがある。
②アンケートの１０番、学校と地域との関係については、「とても重要」とする回答が少なく、重要度が低い回答になっている。そもそも子ども達は日中、学校に行き、地域との関わりは薄いのでこういう回答になる。
③地域との関わりは非常に大切だと思う。子ども達の見守り等お願いしている立場である。
④プラスの意見、マイナスの意見があり、審議会では色々な意見を参考に検討してほしい。

その他
①アンケートの回答ができなかった理由としては、忙しいなど色々あるが、重要なアンケートであり、アンケートの信用性にも関わる。
②石動小学校はまだ新しいため、なくなることは非常に考えにくい。
③アンケートの小学校区別の回答率が、石動校区・大谷校区に比べ、統廃合の影響がありそうな津沢校区・蟹谷校区で少し低い。ＰＴＡ同士で話した時は色々な意見が出ている。
④石動地区は人口比率が高い地区であるが、この石動小校区の保護者は統廃合にあまり関心

が高くないことを踏まえ、アンケート結果を見ないと数字を見誤る。統廃合に関係ある地区は人口減少が激しい人口比率の低いところで、少数意見の方がより切迫した考えを持っているので、アンケートで多数に見えるが実際は統廃合に関係がある方々の意見は吸い上げられていないかもしれない、ということに注意してほしい。
⑤個人的な意見として、１学年１学級になったとしても統廃合は考えない。
⑥１学年１学級になったことがなく、少ない学級数の問題点がよく分からない。このアンケート結果を見ても特に問題点は感じない。逆に、多くなる方が問題であるような気がする。市の財源や１学年３～４人ということになれば何か思うかもしれない。
⑦石動幼稚園の閉園に今もショックを受けている子ども達もいる。財政面の話は理解できるが、大人の事情であって、子どもには関係ない。統廃合より、みんな、自分の母校は永久にあってほしいと願っていると思う。教育とは、建物を建てる、バスを出すなどではなく、その場所で健康的に培ったものということを感じる。子どもにそのような教育をさせてあげられないもどかしさがある。一つの教育がなくなってしまうと感じる。教育にはそれぞれの抱負、地域性が永遠にあってほしいと思う。
⑧財政、少子化、設備、色々なことを総合的に考えると仕方ない、折り合いを付けるしかない。情緒的なものはきっとあるし、跡地として何か残ったとしても消えない感情がある。
⑨私は５年生のときに統廃合を経験した。建物はピカピカでしたが、何か固い印象で怖かったし、息苦しく感じた。ガチャンと木造校舎が壊される瞬間を見たときは悲しかった。
⑩大谷校区と蟹谷校区で保育所統合事業が始まっているが、そこから小中学校の統廃合に反映させるべき意見や情報がないか。子ども達に対する影響が色々あるのではと思う。地元の皆さんからも色々な意見があったと聞いている。
⑪スクールバスに乗ったことがなかったので、２５分～３５分も乗っている子ども達がいることにびっくりした。統廃合になり、もしスクールバスを利用するとしんどくなることもあると思った。
⑫自分の子は文化部で学校同士の試合はないが、クロスランドで４中合同の演奏会があり喜んでいる。学校同士の切磋琢磨を考えると、統廃合はすごく難しい問題です。中学校はどこの学校も２０年～３０年経っていて、大規模改修も未実施であり、もしかしたら中学校は石動地区であっても統廃合はありえるかもしれないと考えている。
⑬小中一貫教育については、学校区で切磋琢磨できる環境を作りつつ、小中学校の先生の配置も自由にできて、現状の中での苦肉の策なのか、流行なのかと感じた。ただし、それが本当に良いかどうか検討もつかない。
⑭皆さん、母校に対して思いをお持ちなのだと感じた。
⑮再編計画などは、市の財政状況もあり、市を成り立たせていく上で大切ですが、これから各学校の教育環境を整える改築が財政的に厳しく出来ないのであれば、それに使わなかったお金は建物以外で子ども達の教育にちゃんと使われると説明できるようにしてほしい。再編に反対ということではないが、結果を大人が子どもに話すときに胸を張って説明できるような内容にしてほしい。
⑯東部小学校は築６０年程経っているが、改修等してまだまだ使えると思う。
⑰中学校は３０年近く経っているが、大規模改修しないのか。
⑱文科省の資料に、小規模校のメリットとして「児童生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、

決めこまやかな指導が行いやすい」とあるが、小規模校では多くの業務が１人の先生に集中している現状の中、小規模校が良いのか疑問に思う。個人的には３クラスくらいが良い。

【　東部小学校　】
◎開催日時　令和元年８月７日（水）　午後７時～午後８時３７分
　場　所　　東部小学校２Ｆ　ランチルーム
　出席委員数：７名　　事務局員数：５名　　参加者数：１１名

事前説明
①アンケートの結果に違和感がある。お年寄りがメインの結果であるが、学校統廃合において優先すべきは子どもとその保護者の意見です。回答した５０、６０、７０歳代で７割近くになり、その意見を聞いてまとめる必要があるのか。資料の後半部分については事実だと思う。
②優先すべきは小中学生の保護者で、保護者全員にアンケートを配布して意見を求めてほしかった。
③内容を見ると統廃合を前提としたように感じる。少子高齢化が急激に進み、私も子を持つ親として今後この地域で子どもを育てていくことに不安に思っているし、自分の子がどこの小中学校に入学するのか分からない状況ですと不安になる。
④事務局の説明された統廃合の議論の背景であれば、このアンケートは不要である。バックデータも知らない保護者へ聞くよりも、考えている姿があるならば「限られた予算の中で、時代の変化とともにこういう選択肢もあります、こういうあるべき姿もあります」と、素直に伝えてもらった方が私達も意見を言いやすい。

テーマ１
①東部地区には、町屋、田川地区、宮島地区がありますが、特に町屋の地区で、商店も少なくなり、獅子舞も出来なくなり、子どもと地域のコミュニケーションが少なくなっている。

テーマ２
①息子が小学校入学前に小矢部市へ引っ越して来たが、６年間お世話になり、非常に温かい学校と思う。４～５クラスでは多いかな、１～２では少ないかなと思う。上の子と下の子が関わっている姿を見ると十分やっていけることを見させてもらっている。
②適正な人数について、必ずしも少人数の学校が子ども達の教育環境に悪い影響を与えるものではないと、私自身の子ども２人がこの学校で学んでいて感じている。子ども同士が異年齢で交流しているという面、地域に密着しているというのは大事な要素だと感じている。
③アンケートを採られて、どうして３０人程度になったか分かりません。例えば、学力だけを上げるのなら少数の方がいい。アンケートを採る意味があるのか、こういう場合は児童数があってそれを割り振り、結果的にどれだけの人数になるのか決まると思う。
④近年、世界から見て日本の学力が落ちてきている。日本人の人格形成、自分さえ良ければ良いという感覚ではなく、みんなで助け合うという感覚も日本の教育の中に折り込んでほしい。技術面で世界の水準に追いつくためにどういうことをしなければならないのか、どのように学力を上げるのか、予算を削る所は削り、必要な所にはどんどんかけてほしい。
⑤少子化が進むにつれてみんな仲良くという考えが多くなっている気がする。自分達の子ども時代は子どもが多く、ずっと競争をしてきた。社会に出ると競争が必要になるので、ずっ

と仲良くとやってきた子ども達が将来、社会や世界で通用するのかと疑問に思う。学力が優秀な生徒達を伸ばしていくやり方も良いかもしれない。
⑥自分の時は、東部小学校２クラス、石動中学校６クラスで、クラス替えがあり、その中で競争心が芽生えた。しかし、石動中に進学して６クラスになり圧倒されたが、中学校の部活動で揉まれ、いい友人との出会いがあったので、今の自分がある。東部小の良さもあると思うが、小さいときから揉まれるのは子どもの成長を考えれば良いことである。東部小の保護者の多くは中学校に進学するときに上手くやっていけるのか不安を抱いていると思う。

テーマ３
①地域毎の人数の大小により、適合できるかという問題が懸念される。中学校への進学で、私の経験では、東部は少数だから石動の人達に合わせることがあった。統合になると東部はマイノリティになるので、地域性のマイノリティの懸念を非常に感じる。
②東部小から石動小の校舎に行くとなると、石動の方からすると東部のやつらが加わってきたという感覚、統合というよりは混ぜてやっているという感覚になるのではないかと思う。そういう雰囲気に馴染めない子もいる。中学校への進学で一緒になるのと小学校の統廃合で一緒になることは別だと思う。今の在校生を統合で石動小に通うことは難しいと思う。
③今、東部小の全校生徒は１００名ですが、令和７年には６６名になります。さすがに６６名だと少なすぎると思う。
④学校規模にも関わるが、配置の問題を考えたときに、途中から統合して小さい学校が大きい学校に統合されるならば、小学校から同じスタートラインに立って、小中一貫という形の方が安心して子ども達を見守っていけると感じる。
⑤東部小の人数が減っていて、この先もあまり良くないので、石動小や大谷小の方で東部小に近い方に対して、東部小に来ませんかという形で枠を増やすことは出来ないのか。少人数ということを活かして、タブレットを導入するなど興味を持ってもらえるような教育をして、東部小に近い場所に住んでいる方にも来てもらえる仕組みを作れば良いと思う。
⑥統廃合に全く関心のない保護者は東部小学校にはいない。東部小の耐震補強工事を何年か前に行い、何年後かには統廃合することを考えている。先を見据えてほしい。実際に無駄なことや無駄な時間を使い、進め方が違うのではないかと感じる。正しい意見が、保護者の意見が、市長に伝わってほしい。お年寄りの意見だけが伝わっても仕方がないとアンケートだけ見ても思った。

その他
①親としては、子ども達が地域に対して郷土愛を育めるような教育環境を作ってほしい。将来的にこの市に戻ってくる子ども達を育てるということにも繋がっていくので、そういった観点も大事にしてほしい。
②私の子どもがきらりこども園の第１号の卒園生です。年中か年少のとき、１～２年後にといきなりの話だった。５年後とかだったら大丈夫ですが、来年とかは止めてほしい。

【　大谷小学校　】
◎開催日時　令和元年８月９日（金）　午後７時～午後８時１４分
　場　所　　農村環境改善センター　農事研修室
　出席委員数：５名　　事務局員数：５名　　参加者数：１０名

事前説明：（発言なし）

テーマ１
①先生の負担感が大きい。疲弊している先生から学ぶことは難しく、学校規模があまり大きくなることも、先生の業務が増え、それで生徒に目が行き届かなくなり、生徒も不幸になるのではないかと思う。そこを上手く出来るような形で進められればいい。
②４０年ほど小矢部に暮らしてきて、私自身も娘も大谷小学校に入った。大谷は人口の増減が少なく、暮らしていて上手くいっているような気がする。小学校に関しては、通学圏を考えると２クラスくらいが良い。

テーマ２：（発言なし）

テーマ３
①私は大谷校下ですが、問題を特に感じていません。津沢や蟹谷で部活動の問題があると聞く。
②子どもが勉強を教えてもらう先生の働く環境にも耳を傾け、先生方の働きやすい職場という観点で見てほしい。
③テーマの「これからの学校教育のあり方と学校規模の適正化・適正配置について」がずれている。子ども達にとって、どんな学校、どんな学習生活環境がこれから必要になるかを保護者からの意見を取りまとめることが、この会の本質である。意見交換会を開いたという既成事実として進むのではなく、保護者やたくさんの人の意見を聞いて、その中でより良い学校教育を考えていくという方針でいけば良いと思う。
④岩尾滝小学校は人数が少なくなったことで石動小学校へ統合したと聞いたが、それ以外に同じ理由で数が少ないことによる統廃合があったのか、それとも別の理由で統廃合があったのか。統廃合を考えるにあたって、その理由により変わってくる。他の保護者にとっても、少なくなっている危機感などが、違う地区の話だと捉えられたら困ると思う。
⑤子どもが減り、当然、登下校班の人数も減ってくる訳で、安全を考えると学童保育に入れざるを負えない状況にある。実は学童保育のために仕事を３０分短く退社しているが、サラリーマンで男性としてはけっこう苦しい立場で、ここ１年半ほど経つ。地区の子ども達の数がどのくらい減って、それによって親がどのくらい困るのかという意見も聞いてほしい。登下校する子どもの数が減っていることが一番の問題で、その中で学童保育に預ける人が増えてしまうと、登下校の人数不足による不安から学童保育に入れたくない人も入れざるを負えない状況が増える。
⑥結局、統廃合は子どもの減少ありきで、少子化対策は違うところで話をされるということか。小矢部市として、この辺に家を建てれば良いですよとアピールするとか、増やす方向に

頑張ってほしい。小学校が新しく建ったら今の小学校の周りは家がなくなって、そこはお年寄りだけが住むことになる。子どもの通うところに家が建って、そこに集落が生まれていると思う。もっと市で子どもを育てるということを考えてほしい。

その他

①子どもが少ないから安易に学校を統合してしまうと、人が減る集落が出てきて、元々そこにあった地域の祭りなどが失われていくことに繋がると思う。そのようなことも考慮して検討してほしい。

②アンケートの回答者は６０代７０代が多数です。これだけをもって討論されることはないとは思うが、子育て世代の意見が一番大事で、こういった場を多く持って、耳を傾けてほしい。

【　蟹谷小学校　】
◎開催日時　令和元年８月４日（日）　午前１０時～午前１０時５９分
　場　所　　蟹谷小学校１Ｆ　図書室
　出席委員数：５名　　事務局員数：４名　　参加者数：４名

事前説明：（発言なし）

テーマ１
①学習面では、小学校は基本、競争心を煽るよりも平等に学力をあげていくことが大切です。一人ひとりに平等できめ細やかな教育が行われることが必要です。
②学校でいじめの問題があっても、家では学校の実態がなかなか見えないので、学校内での管理体制、学校で先生と生徒のコミュニケーションを大切にしたり、子どもが何をして遊んでいるかを把握したり、いじめの種がないか気配りをしてほしい。

テーマ２
①学級の人数は２５人くらいが自分の経験から言っても良いと思う。先生と親しくなり、子ども同士も知り合える限度かと思う。
②クラスについては、あまり多くて６年間同じ学校にいても名前も知らない人がいるということを考えると、２～３クラスが良いと思う。

テーマ３
①統廃合を前提に、一番は平等であるということから考えると、地理的に統合する校下の真ん中あたりが良いと思う。遠くなる生徒にはスクールバスの利用を考えなければならない。
②地区の伝統を守ることも大事であり、少子化ということで更に統廃合となると、より遠くの学校へ行くことになる。統廃合によって離れたところに学校を配置すると、自分の地域の歴史や文化を守っていこう、地域行事やイベントに参加しようという意識が薄れるのではないかと思う。今でさえ、少子化が進んで公民館行事などは少ない人数で行っている中で、更に拍車をかけることになると心配する。
③学校へ公民館の祭りに来てほしいという依頼が現在もあると思うが、学校がまとまってしまうと、各地区の公民館行事に呼ばれて毎週どこかに出向かなければならない、かつスポーツ少年団もあると、家族とのコミュニケーションの時間や家で過ごす時間、自分の自由な時間というものが無くなるのではないかと危惧している。
④アンケートの「小学生の通学バスに乗る限度時間」という項目では、３０分以内が望ましいと多くの方が回答している。バス乗車時間３０分以内が限度と言われている中で、今は２㎞以上という基準があるが、３０分以上歩いている、４５分歩いて通学している児童をバス通学の対象にしてほしい。
⑤市全体の公共施設の話をされたが、私は現在の小学校単位に不自由さは全く感じていない。よって、他の公共施設で２０％削減すれば良いのではないかと思う。
⑥小学校は最近、耐震化もしたところで、まだまだ使うことができると思う。
⑦私は切磋琢磨せずに、のびのびと自分の成長につながる今の体制で良いと思う。また、地

元から離れた大学へ行くと、そのまま帰って来ず就職する、又は戻って来てもなかなか地域に溶け込めない状況がある。結果、農業の働き手の減少など、悪循環につながっていると考える。地域から子どもを遠ざけるよりも、なるべく地域に残して、地域の人達がどんなことをしているかを勉強させる方が良いと思う。昔からある農業や近所との付き合いなど、保護者や地域がみんなで教えて子ども達の成長を支えていくことも必要です。少子高齢化が進む中で市の財産である子ども達を確保していくことも今後は考えないといけない。そのためにも子ども達を地域から離れさせてはいけない。

その他：（発言なし）

【　津沢小学校　】
◎開催日時　令和元年８月１２日（月）　午後７時～午後８時９分
　場　所　　津沢コミュニティプラザ　会議室１・２
　出席委員数：８名　　事務局員数：５名　　参加者数：１４名

事前説明：（発言なし）

テーマ１
①今、教職員のなり手が少ない、教職員がすごく大変だと思う。教職員のなり手を増やすためにどうするのかが必要で、統合して教職員を充実されるなら良いが、統合せずに教職員のなり手がいなくて教育がしっかり出来ないということであれば問題です。子ども達の教育を考えたときに、先生達が働きやすい環境をどうやって作っていくかを考えないと、この問題はずっと解決されない。先生達が働きやすい環境を充実すれば、子ども達に対する余裕も出来るし、教育に対する余裕も出来るのではないかと思う。生活面の指導については家庭ですればいい話なので、家庭で出来ないことを学校で少し補う程度にしていけば良い。家庭で出来ることは家庭でやり、先生が働きやすくて、先生になりたいという人を増やして行けば、すごく循環が良くなると思う。
②アンケートにはお年寄りと保護者の世代が混じり、データが年齢で分けていないと感じた。このアンケートの信憑性はどこまでなのか、参考になるのか、本当の気持ちをどこまで聞けているのか、と思った。
③学校教育の充実については、部活動・スポーツ少年団を他の地域に行っている方もいるので、もう少し選べる環境があればいいと思う。本当にやりたいスポーツが出来ないこともあるので、そういう所を充実させてあげたい。

テーマ２
①津沢小学校の児童数の推移を見てびっくりしている。
②津沢小学校の今のままの流れで１クラス４０人以下になってくると、小学校から中学校までそのまま上がるので９年間ずっと同じ子達と過ごさなければいけない。子ども達の環境に変化がないことが非常に辛いことになる。それが９年間ずっと１クラスということは、クラスの中での優劣も付きやすくなるし、子どもにとっては全体的にデメリットの方が多いと思う。少人数学級でクラス替えが出来るよう３５人以下というような環境づくりをしてほしい。

テーマ３
①学校配置は今あるものを使うのか。統合で今ある所を使えば遠くなるが、建てるかどうか気になる。
②中学校だけ見ると、令和５年以降レッドゾーンと思う。

その他
①部活動の人数があまりにも少なく、蟹谷中学校と一緒に部活動をしている。統合しているような状況にある。もし部活動だけの問題であれば学校はそれぞれでも良いかと思うが、集

団生活の中で養っていくべきものがあるので、切磋拓磨ということもよく聞くので、人数が多い方が良いと思う。部活動も中学校で続けていくということであれば統合しても良い。

小中学校統廃合審議会 中学校保護者意見交換会の要旨録（概要）

（１）開会挨拶
（２）意見交換会の流れ、市民アンケート調査結果・添付資料の説明
（３）意見交換、テーマ別市民アンケート調査結果・添付資料の説明
大テーマ：小矢部市のこれからの学校教育のあり方と学校規模の適正化･適正配置について
小テーマ①これからの学校教育で充実することが望ましいと感じていることについて
②望ましい学校規模（学級数や学級の児童数）について
③望ましい学校配置について
（４）その他意見
（５）閉会挨拶

【　石動中学校　】
◎開催日時　令和元年８月２９日（木）　午後７時～午後７時５３分
場　所　　総合会館４Ｆ　中会議室
出席委員数：１０名　　事務局員数：５名　　参加者数：６名

事前説明：（発言なし）
テーマ１：（発言なし）
テーマ２：（発言なし）

テーマ３
①統廃合にはすぐにはならないと思うが、生徒数の平均値でいくと答えが出ているという気もする。
②統廃合で学校を新設するとなった場合、学校にいくらぐらいかかるのか。皆が統廃合しましょうと学校を作ると、その分の税金が増えると本末転倒になる。

その他
①統廃合の決着までまだ先だと思う。
②実際生活しているの子ども達の生の意見を聞いて、そこをくみ取ってほしい。大事な税金の使い道として、そこはあるべき姿があればと思う。
③昨今の働き方改革で富山県の成績の高さが維持できるのか。現状を１００と捉えた場合に働き方改革を進めると必ずマイナスになってくると思うが、そこを手厚くしてほしい。そこを可能にするためにはどうするのかということも今後話を進めてほしい。

【　大谷中学校　】
◎開催日時　令和元年８月２６日（月）　午後７時～午後８時１４分
　場　所　　農村環境改善センター　農事研修室
　出席委員数：９名　　事務局員数：４名　　参加者数：７名

事前説明：（発言なし）
テーマ１：（発言なし）

テーマ２
①慎重に進める必要があり、決して慌てる必要はない。部活動のあり方も多分この１０年で変わるので、先を見据えて見通して決断をしてほしい。私が思う教育で大事なことが３つ程ある。

１）地域との連携。小矢部はいい状態である。事件も少ない、生徒は落ち着いている、一生懸命頑張っている生徒が多い。そういう意味で、地域が支えて、地域で育てる、地域との連携が上手くいっている。その証拠に、ＰＴＡ活動もスムーズ、協力的、子どものために力を貸そうという思いがある。
２）少人数で丁寧に教える。きめ細やかな教え方をするにはどうするかである。
３）部活動。子ども達には自分の好きなスポーツを精一杯頑張ってほしい。しかし、その部活動がないことが、今、子ども達の本音ではないかと思う。

いくつか切り離して考える方法がある。例えば、丁寧な授業、そして地域との連携を図っていくには、今の４つの中学校のままでいい。スクールバスも必要ないし、自転車で通うことが出来る。地域に根ざしてＰＴＡ、若しくは地域との絡みで子ども達を育てていくことが出来る。少人数も今の学校のままであれば可能である。一方、部活動は今のままだと上手くいかない。学校を４つ残したまま部活動を一つにして、今までなかった部活動を増やす。そのようにして、自分達がやりたいスポーツが出来る環境を作ってやることが出来る。文科省の地域のクラブも認める、他県の合同部活動を参考にするなど、今後いい方向を考えてほしい。

テーマ３
①身近なところでも通学路の安全が確保できていない状況にあるので、慌てて結論を出すことはない。統廃合になると近くなることはなく、遠くなると思う。親として学校の勉強面も心配ですが、毎日無事で帰ってきてほしいということもある。通学路の拡幅など、保護者の意見を聞いてほしい。ＰＴＡで迂回の通学ルートを設定するなど、現状の通学路で事故が起きないのではなく、私達が遠回りをして通学をしている状況がある。教育のことだけでなく、学校配置の時には安全な安心して通える通学路の確保を考えてほしい。小矢部市が学校のそういうところに力を入れていることが分かれば、魅力を感じて定住促進にも繋がる。
②令和１３年に１５０人６学級ということは各クラス２５人になって、学習面で先生の目も行き届きやすく適正な数字と思う。年によっては増減しているので、慌てる必要もない。学校配置は、例えば令和１３年の時点でどこかの中学校に一つとなったときに、箱的にどの中学校でも受け入れ可能か、増設が必要か。

③１クラス３０人くらいが良い。３クラス程度が学校生活を行う上で先生と生徒がより良い関係を作れると思う。統廃合の関係では、３０人で３クラスだと９０人になるので、９０人を目安として考えてほしい。通学距離の関係から真ん中に学校を作れれば良いが、基本的には既存校舎を活かすことになると思うので、それは慎重に考えてほしい。
④子どもは大谷中学校３クラスでのんびり過ごしている。自分は石動中学校で当時４５人６クラス、１学年２００人以上いたので顔も分からない同級生もいた。大谷中のＰＴＡ活動をして、地域が子ども達に積極的に接し、地域と学校が連携している状況が見える。今の状況で良いと思うが、今の状況が続くのであれば、もう少し規模が大きくなっても良いと思う。その辺だけ将来的に考えてほしい。
⑤親として大谷地区の朗らかな部分が非常に良いと思うが、競争がない中で生活してきて、高校生になったときに突然競争社会に放り込まれて苦労するという話は複数聞く。ある程度の学校規模が必要ではないかと思う。実際に生徒数の推移を見ると、学校環境は良いと思いながら、この４校を継続できるかは数字だけ見ると難しいと思う。

その他

①人数が少ないから統廃合するということではなく、例えば、統廃合により財政的にも余裕が出てくるとか、浮いた財源で教育制度を整えられるとかの展望があれば、教育を受ける側としてはそれならばという気持ちが持ちやすいと思う。
②備品や消耗品に関しては、授業や子ども達に必要なものは当然支給してほしい。つまり学校を新しくするために、学校のリニューアル、改築、増設を見合わせると聞いてる。

【　蟹谷中学校　】
◎開催日時　令和元年８月３０日（金）　午後７時～午後８時７分
　場　所　　蟹谷中学校２Ｆ　図書室
　出席委員数：６名　　事務局員数：５名　　参加者数：１５名

事前説明：（なし）
テーマ１：（なし）

テーマ２
①アンケート結果から１学級あたり望ましい児童生徒数と学校規模を考えると、小中学校いずれも１校ないし２校が過剰になってくる。いざ廃校になってくると地域の諸事情が出てくるので、その辺りをどう調整していくかが難しいと思った。

テーマ３：（発言なし）

その他
①実際、蟹谷中学校は一番生徒数が少なくなってきて、このまま維持は一番難しいと思う。
②合併になると、メルヘンの建物をどのように考えるのか。残す方向か、再利用か、それとも中間に新しい学校等を造るのか。

【　津沢中学校　】
◎開催日時　令和元年８月２８日（水）　午後７時～午後７時５９分
　場　所　　津沢コミュニティプラザ　会議室１・２
　出席委員数：６名　　事務局員数：４名　　参加者数：７名

事前説明：（なし）
テーマ１：（発言なし）

テーマ２
①子ども達のことを考えれば、クラス替えがあった方が良いと思う。１００人を切る状況であれば、せめて中学校は２つくらいがくっついても良い。その点で子ども達も増え、部活動もお互い切磋琢磨するのでレベルアップ出来る。たくさん選手がいれば県大会に出場するなど、チームも強くなる。学習面も成績を凌ぎ合い、市全体の学校が良くなる。１学年の数が多くなる、学級数が多くなることは良いことと思った。
②９年間同じメンバーということは良いとは思えない。良い面もあるが、特に学年に１クラスしかなかったら、９年間人間関係が固定してしまう。せめて中学校に上がるときは一回関係がリセットするというか、新しいメンバーが何人か入った方が良い。参考に小中一貫ということもあるが、結局、新メンバーが入ってきた方が活性化になるのではないかと思う。

テーマ３：（発言なし）

その他
①今後、クラス替えも出来ない学校が出てくるので、市民が思っている適正規模から考えても、統廃合ということは避けられないと思う。統廃合となると３０年４０年先を見越したことを考えなくてはいけない。市では２０年３０年後に生徒数がどのように推移するか、データがあるのではないか。
②意見交換会の案内が来て多くの保護者と話し合ったが、中学校も子ども達が少ないから例えばクロスランドの横に大きい学校を建てればという話が実際あり、いきなり目茶苦茶なことは無理だという話もしてきました。例えば、ものすごく大きな住宅街が出来て人口が爆発的に増えるようなことが無い限りは、子ども達も少なくなり、１０年後になると人口も２８，０００人くらいになる。小矢部市は人口の割に中学校が多い。
③総論として統廃合した方が良いと思っても、それが１０㎞、２０㎞も先の所に通うとなると保護者はそこまでしなくてもと思う。

小中学校統廃合審議会 地区意見交換会の要旨録（概要）

（１）開会挨拶
（２）意見交換会の流れ、市民アンケート調査結果・添付資料の説明
（３）意見交換、テーマ別市民アンケート調査結果・添付資料の説明
大テーマ：小矢部市のこれからの学校教育のあり方と学校規模の適正化･適正配置について
小テーマ①これからの学校教育で充実することが望ましいと感じていることについて
②望ましい学校規模（学級数や学級の児童数）について
③望ましい学校配置について
（４）その他意見
（５）閉会挨拶

【　石動中学校区　】
◎開催日時　令和元年９月１４日（土）　午後７時～午後８時４７分
場　所　　総合会館４Ｆ　中会議室
出席委員数：１１名　　事務局員数：４名　　参加者数：２９名

事前説明：（発言なし）
テーマ１：（発言なし）

テーマ２
①埼玉にいる私の孫が高知県の小中学校統合校へ山村留学したが、小規模校で、非常に手厚い学校教育である。先生方が父兄の前で「私達にお任せ下さい。安心して任せて頂いて結構です。」と非常に自信たっぷりに挨拶をされ、こんな学校のやり方もあるのかと非常に驚いている。
②児童数が減ることがデメリットか、逆にメリットで教育としてふさわしい面が多い。
③黒部市の小学校統合は本市の場合と事情が違う。本市が昭和４０年頃に実施したことを、今、黒部市が実施している。若林小学校のような非常に小さい学校を大谷小学校に統合した事例のように思う。
④大きな災害が起きたときに小中学校が避難場所になるし、多くの人がグラウンドや体育館をよく利用している。
⑤人口減少対策を行い、子育てがしやすい市であることを逆にメリットとしてもっとＰＲをしていくべきである。
⑥石動小学校だけが変化が無く、大谷・蟹谷・津沢はそれぞれ生徒数が激減している。
⑦部活動のあり方は、毎日ではなく週１、２回になるが、他の学校と一緒にすればどうか。
⑧部活動を地域へ移すには地域の受け皿が必要ですが、小学生のスポーツ少年団は既にそういう体制が出来てる。いきなり地域へは難しいので、手前の段階として合同部活動などをこれから実情に応じて考えていく段階にある。
⑨部活動の件では、地域への移行、合同部活動など、色々な部活動をという発想があるので、逆に施設として今の体育館やグラウンドが一定数必要になってくる。

テーマ３：（なし）

その他

①アンケートに小中一貫教育の設問があることが疑問である。統合問題は統合問題として、きっちり整理してもらい、その後、教育のあり方として小中一貫教育を議論すれば良い。小中一貫の議論を混ぜると論点がずれてくる。

②市議会はあくまでも慎重で、統廃合の議論と小中一貫校の議論をトータルに議論することは慎重であるべきというスタンスです。

③アンケートの回答率が低いので気になる。これをもって市民の意見とするには低い。

④アンケートの回答者の年齢構成が気になる。子ども達がいる若い年齢層の回答が非常に少なく、年寄りが多いことに対してどのように考えていくかが大切である。

⑤若い人のアンケートの回答が少なかったことは関心がないからか、どう見るかである。

⑥中学校の生徒数を令和１３年まで見ているが、世の中は劇的に変わります。２０年、３０年の予想も見て考えてほしい。

⑦学校施設は色々整備済みであることから、メリットを活かしてデメリットを克服するという形で、現状の学校の施設を使いながらより良い教育をしていく努力をすべきである。

⑧ＰＴＡの望んでいることは何か、その年代層の意見は、しっかり分かるまで教える丁寧な指導ではないかと思う。

⑨学校も耐震化、エアコン導入などの環境を整備してきている。耐用年数があるものを壊さずに、市独自の特色ある施策というもの、親が魅力を感じる教育というもの、そういう市政を考えていくことを期待する。

【　大谷中学校区　】
◎開催日時　令和元年９月２１日（土）　午後７時～午後８時２７分
　場　所　　農村環境改善センター　多目的ホール
　出席委員数：９名　　事務局員数：４名　　参加者数：２２名

事前説明：（発言なし）

テーマ１
①資料５ページ、教職員に関することについて、４番の子どもの悩みへの真摯な対応などと５番６番８番から、一人ひとり行き届いた教育を期待したいという声のように感じた。もう一つは、小中一貫校について、一人ひとりに対して期待されていることを小中学校ひっくるめて考えていいのだろうか、小学校は小学校で中学校は中学校でと感じた。
②学校と地域との関係について、避難所としての機能、住民のスポーツ活動の場としての機能など、「とても重要」と「重要」を合わせるとすごく大きな位置を占めている。改めて施設が、地域の中で大きな役割を果たし、期待されているということを再認識した。
③部活動のあり方に関しては、地域で部活動をする場合、別の施設で行うよりも学校の体育館やグラウンドを利用し、地域の指導者が行うことをイメージして考えなければならない。先生の加重負担を解決するという意味でも地域で進めていく方が良い。
④アンケート１０番、避難所としての役割が「とても重要」「重要」、合わせて８０％を超えていることから、文科省だけでなく、防災の面からも必要である。

テーマ２
①１クラスの人数４０人という基準の中で、保護者の意見に合った３０人、３０人以下に、子どもの成長段階で適正な人数や暮らす上で欠かせない人数という形を小矢部市の方から変えていこうという意志が必要である。少人数はきめ細やかな対応というメリットがあり、そのような教育施策を進める考え方が必要である。学級数が減ることのデメリットと言われても中々ピンと来ない。

テーマ３
①大規模化の場合は、全教職員による児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい、というところが大事である。小規模だと先生が色々と知ってることが多いので対応しやすい。
②小学生のバス通学については、それぞれの地域を回るので子どもがバスに乗っている時間が長く負担がかかる。遠くなることで長い間バスに乗っていることも困る。
③時代の流れで、少子化、いずれは統廃合という問題は避けては通れないとは思うが、学校が遠くなるという問題が出てくる。スクールバスは短い時間で便も多く出れば尚更良いと考える。通学路については、子ども達の安全を確保するという意味で、歩道、フェンス等の整備をしてほしい。
④生徒の生の声も大事にしてほしい。現在の中学生は学校の現状を受け入れていると思うが、生徒にとって一番要望したいのは部活動ではないかと思う。統廃合と部活動を切り離して考えてほしい。

⑤学校が地区からなくなることは、あってはならない。現在、地区と学校の関係はすごく絆が深いし、ＰＴＡ活動も盛んに行われている。それから学校を頼りにしている面も多く、また地域が学校を頼っている面もあるので、この連携を崩して欲しくない。
⑥アイディアを募集すればといい。急ぐ必要はないし、小矢部市や子ども達のためにどうすれば良いのか、もっと話合いの機会を多くしてほしい。
⑦とにかく検討してほしい。生の声、生徒に直接聞くこと、子ども達がやりたい部活動が出来るというのを第一優先に、それを出来るだけ早く対応してほしい。学校統廃合とは別に考えて、統廃合をしないでこのまま４中学校を残すということも考えてほしい。
⑧小学校と中学校を別々に考えて、小学校は統合しないが、中学校で統合すればどうか。小学校高学年段階における子どもの身体的発達・思春期の到来時期の早期対応など、要するに子どもの成長に伴って、子どもが欲するところの教育、子どもに付与すべき教育というものはその年代によって変わっていくべきもので、その幅は広く、小中一貫というトータルな考えもあると思う。
⑨小さい子どもには一人ひとりにきめ細かい教育をしてほしい、中高生になれば受験や社会のことも出てくるので切磋琢磨する機会を与えてほしいという声がアンケートから読み取れる。とすれば、小学校と中学校では考え方を切り分けるべきである。統合して機会を与えるということも一つの考え方だと思う。
⑩中高生になると特に切磋琢磨という要望が大きくなる。そこで、中高一貫教育、子ども達の将来、子ども達の教育、そういう純粋なところに焦点を当てて是非検討してほしい。

その他：（発言なし）

【　蟹谷中学校区　】
◎開催日時　令和元年９月２２日（日）　午後７時～午後８時２５分
　場　所　　蟹谷中学校　体育館
　出席委員数：７名　　事務局員数：５名　　参加者数：９名

事前説明：（発言なし）
テーマ１：（なし）
テーマ２：（発言なし）

テーマ３
①小学校は１クラス３０人くらいで２学級から３学級となれば、自ずとどこかの学校と一緒にならなければならない数字になる。これがアンケートの数字という捉え方をされると、少しおかしいという気がする。年々、生徒数が減っていることをきちんと説明してアンケートを採っているのか。
②アンケートの回答者が、統廃合をしていかなければならないことを理解しているのか疑問に思う。そこをよく踏まえた上で、分かるような出し方を書類で説明してアンケートを採ってほしい。一番大きなことは、統廃合でアンケートが来たから出したということであれば、答えが非常に無責任になってくる。アンケートを参考にしますという主旨をきちんと出していないと、アンケートの意味がずれてくると感じた。
③適正配置をすると距離的に重複する地域もあるので、市全体を１校区と考えた方が良い。通学が問題になるので、スクールバスばかりではなく、交通体系の見直しも審議の中で色々と考えてほしい。各校区にこだわらず、特色ある学校教育、小中一貫教育についても色々考えてほしい。蟹谷校区にはスポーツ施設が多くあるので、スポーツの好きな子を全部寄せるとか色々な答申の仕方を考えてほしい。そのためにも交通体系も一緒に考えてほしい。
④資料２ページの５番、教育の関心についてに「あまり関心がない」「全く関心がない」と回答した人達を排除したものが、このアンケートのあるべき姿ではないか思う。関心のない人達の意見をここに入れることによって、変な答えが出てこないか心配である。
⑤資料１２ページ、学校別の児童生徒数・学級数の推移と今後の予測を見て、非常にびっくりした。小学校の場合は令和７年から２７年後に５８０人くらいに、中学校の場合は令和１３年の３３年後に２００名前後になってしまうことが類推される。この数字を前提に考えていかないと、例えば令和７年の児童数ではなく、もっと長期的な３０年後５０年後の児童数を前提に統廃合を考えてほしい。そうしないと、財政的に無駄なことが起きる可能性もあるし、児童数が減るということは人口減にも繋がっているわけで、財政面でも非常に厳しくなることが予測される。
⑥他所から人を呼び込むような教育をしてもらいたい。例えば、統廃合・適正化・適正配置後に、他所からも通いたいと思わせるような教育システムを作ってほしい。
⑦小中学校の一貫教育は推進してほしい。今の６・３体制は殆ど意味をなしていないので、そのバリアをとることで、柔軟で多様な教育のあり方が出来る。能力のある子は６年生でも中学１年生の授業を受ける、能力のある小学校高学年の子が中学校の部活動に入る、中学２・３年生が小学校低学年の面倒を見るなど、学力やスポーツ能力の向上にも繋がるし、交流を

しながら情操教育に繋がる。出来れば小中一貫教育を前提にした適正化を考えてほしい。
⑧これからはＩＴ活用が教育現場においてより一層重要になってくる。それに備えた適正化、教育のあり方を考えていくことが重要である。
⑨学校は一つの地域のシンボルでもあり、無くなることは非常に残念であるが、例えば、公民館施設を入れて地域のお年寄りと小中学生と一緒に活動する、駐在所を一緒につける、学校だけではなく他の施設もつけるなど、教育だけを考えるのではなく、特色のある地域全体を考えたシステム作りをしてほしい。統廃合を通して人を呼び込む、小矢部市が発展できるようなビジョンを明確に示してもらえれば市民も納得できると思う。

その他：（発言なし）

【　津沢中学校区　】
◎開催日時　令和元年９月２９日（日）　午後７時～午後８時５４分
　場　所　　津沢コミュニティプラザ　会議室１・２
　出席委員数：７名　　事務局員数：５名　　参加者数：２２名

事前説明：（発言なし）

テーマ１
①一層競争を激しくするような学校のあり方は避ける方向で対応してほしい。人間らしい感情や社会性は中々身に付かないし、一度身につくとそれを中々変えることができません。知育が絶望的に非効率的だというふうになるまで、小さな学級、小さな学校という方向で考えてほしい。ヨーロッパの先進国では１クラス２５人程度が当たり前で、一番良い学校は１００人程度と言われている。全ての学校職員が子ども達の様子を初めから終わりまで分かる状況を指している。競争に勝つことも大事ですが、傷つく子ども、社会の中に入っていけない子どもを作らないということが一番大事である。
②人口減で数の少ない中でというよりも、切磋琢磨してその中で人間性を築き上げていく。感性も大事ですが、切磋琢磨をしながら両面で人間性を作っていくことが一番大事です。そういうことから、市内１校だけにするなどではなく、切磋琢磨できる、その中での教育現場のあり方というものが非常に大事です。
③学校が地域の核として非常に大事で、核がなくなった地域はあり得ない。
④今、教育の現場はブラック企業と言われる職場です。このことを解決せずに適正化問題はまだ先の話である。もっと教育にお金をかけるならかけるで、教員を増やして、子どものコミュニケーションがとれるような学校にしなければならない、そのことが先決問題である。

テーマ２
①学級規模・学校規模については、みんなで考え、議論する必要がある。個人的には、今の状態で良い。児童数が１００人だから少ないということではなく、一生懸命にやっている姿が大切で、まだ統廃合という時期ではないと思う。
②学校に子どもが多いことと競争力がつくことは関係ない。教育で大切なことは、子ども一人ひとりの個性を伸ばすことで、日本あるいは世界で通用する基本的なものの考え方を早いうちに教えてもらいたい。小矢部の方は自分をあまり主張しないが、自分の人権を大事にしていないことになる。自分の意見をしっかり言える子どもを育てることが大事である。子ども一人ひとりを今まで以上に大事にして、個性を育てることが大切である。そういう子ども達は成長していざという時に自分で判断できるようになる。
結論は、学校規模を大きくする必要はなく、教員の過酷な労働状況や帰宅しても子どもの相手をする親がいないことを解決する方がもっと大事である。どういう子どもを育てたいかということを議論してほしい。
③アンケート回答者の年齢構成や意見交換会の参加者に若い人が非常に少ないことが第一の問題である。生徒数減少問題に対しての議論はあるが、食い止める議論が無い。例えば、これから親になる人に人口減が自分達にどのような影響をもたらすのかを伝えて考えても

らう機会が必要である。これは学校の統廃合と並行してやらなければならない。もし、このまま状況が変わらないということであれば、小学校、中学校各１校である。ただし、小学校と中学校が一緒になるかどうかは違う話だと思う。
④アンケート回答者の年齢層を見ると５０～６０代が５０％を占めて、子育て世代の３０～４０代の回答者が非常に少ない。今、子育てをしている人達の意見がより大事で、実際の親世代の考えを引っ張り出すことが重要です。

テーマ３：（なし）

その他
①学校配置の問題については、小中一貫教育の説明を見ていると切磋琢磨ということに重点に置いているようであまり良くない。また、統廃合して学校施設が減るということは、過疎化、人口減に拍車をかけるので、統廃合をできるだけ我慢して本当の教育をやることが市民の幸せにつながると思う。
②学校は国の考えていることが反映されるし、親は暮らしの経験から子どもにはこうあってほしいという思いがある。保護者の希望を十分に満たすような再編をお願いしたい。

小矢部市のこれからの学校教育のあり方
及び小中学校の適正規模・適正配置等に
関する市民アンケート調査

結　　果

【確定版】

令和元年７月１８日

小矢部市小中学校統廃合審議会
小矢部市教育委員会

＊＊＊　　目　次　　＊＊＊

１　実施概要　・・・　１

２　調査結果
（１）　年齢　・・・　２
（２）　性別
（３）　居住の小学校区
（４）　お子さんの有無
（５）　教育への関心について　・・・　４
（６）　教育環境の変化について　・・・　６
（７）　家庭・学校・地域の役割について　・・・　８
（８）　子ども達にとって重要な学習環境について　・・・　１０
（９）　教職員に期待することについて　・・・　１２
（１０）　学校と地域との関係について　・・・　１４
（１１）　学校と地域との関わりについて　・・・　１６
（１２）　地域の学校への協力について　・・・　１８
（１３）　学級数や児童生徒数の影響について　・・・　２０
（１４）　小学校の学校規模について　・・・　２２
（１５）　中学校の学校規模について　・・・　２６
（１６）　部活動の今後のあり方について　・・・　３０
（１７）　通学時間・通学距離について　・・・　３２

３　自由意見の概要
（１）　小中学校の教育のあり方及び適正規模・適正配置について　・・・　３６
※　小中一貫教育について　・・・　３６

４　資料編
（１）　小中学校の教育のあり方及び適正規模・適正配置に関するの自由意見　・・・　３９
※　小中一貫教育に関する自由意見　・・・　４３

アンケート調査結果の概要

１　実施概要

市内小中学校においては、近年の児童生徒数の減少に伴い、クラス編制をはじめ中学校部活動など様々な面において課題が生じつつあり、施設面でも中学校の校舎等が大規模改修の時期を迎えています。また、学習面では、２０２０年度から本格実施となる新学習指導要領への対応をはじめ、少人数指導の充実など継続的な教育環境の拡充も求められている状況にあります。

さらに、市全体の人口減少が続く中、将来にわたり、市の安定的な行財政運営を確保するため、公共施設の総量削減が課題となっています。

このような状況の中、小矢部市小中学校統廃合審議会では、未来の小矢部市を担う子ども達の成長にとって最も重要な学びの場である学校教育のあり方と学校の適正規模・適正配置について、市民の皆様の意見を伺い、今後の方向性検討の参考とするため、１８歳以上の市内在住３，０００人の方に「小矢部市のこれからの学校教育のあり方及び小中学校の適正規模・適正配置等に関する市民アンケート調査（以下「アンケート調査」という）」を令和元年５月３０日～６月１０日にかけて実施（郵送配布・郵送回収）しました。

今後とも、小矢部市の子ども達が、より良い学校生活を送り、心身共に健やかに成長することをめざし、学校教育のあり方と学校の適正規模・適正配置について、より良い方向性を示せるよう努めてまいりたいと考えております。

（１）抽出方法

下記４つの条件に従い、無作為な抽出

①年 齢 別･･･１８歳以上

②性　　別･･･男女同数

③学校区別･･･小学校区ごとに人口比による

④同一世帯にならないこと

（２）配布数と回答数

配布数	有効回答数（有効回答率）		回収数	
3,000 件	1,028 件	(34.3%)	1,028 件	（白紙0件）

*令和元年７月１日

２　調査結果

（１）年齢

１．１０歳代　　２．２０歳代　　３．３０歳代　　４．４０歳代
５．５０歳代　　６．６０歳代　　７．７０歳以上

10歳代	13人	(1.3%)	20歳代	86人	(8.4%)	30歳代	98人	(9.5%)
40歳代	138人	(13.4%)	50歳代	176人	(17.1%)	60歳代	205人	(19.9%)
70歳以上	308人	(30.0%)	無回答	4人	(0.4%)			

※ 参考

	送付数	回収率		送付数	回収率		送付数	回収率
10歳代	80件	16.3%	20歳代	400件	21.5%	30歳代	400件	24.5%
40歳代	400件	34.5%	50歳代	400件	44.0%	60歳代	400件	51.3%
70歳以上	920件	33.5%				計	3,000件	34.3%

（２）性別

１．男性　　２．女性

男性	425人	(41.3%)	女性	600人	(58.4%)	無回答	3人	(0.3%)

（３）お住まいの小学校区

１．石動小学校区　　２．東部小学校区　　３．大谷小学校区
４．蟹谷小学校区　　５．津沢小学校区

石動小学校区	348人	(33.9%)	東部小学校区	110人	(10.7%)
大谷小学校区	241人	(23.4%)	蟹谷小学校区	153人	(14.9%)
津沢小学校区	170人	(16.5%)	無回答	6人	(0.6%)

※ 参考

	送付数	回収率		送付数	回収率
石動小学校区	1,050件	33.1%	東部小学校区	300件	36.7%
大谷小学校区	750件	32.1%	蟹谷小学校区	450件	34.0%
津沢小学校区	450件	37.8%	計	3,000件	34.3%

（４）お子さんの有無

ア　お子さんの有無をお伺いします。

１．有り　　２．無し

有り	740人	(72.0%)	無し	283人	(27.5%)	無回答	5人	(0.5%)

イ　アで有りとお答えになった方に、お子さんの状況をお伺いします。（複数回答あり）

１．未就学児　　２．小学生　　３．中学生　　４．高校生
５．大学生･短大生･専修学校等　　６．社会人

未就学児	93人	(10.2%)	小学生	92人	(10.1%)	中学生	67人	(7.4%)
高校生	63人	(6.9%)	大学生等	75人	(8.3%)	社会人	513人	(56.5%)
無回答	5人	(0.6%)						

［調査結果の概要］

○年齢別に見ると、小学生の保護者は30～40代、中学生の保護者は40代が中心。

図表１　回答者の子どもの有無と年齢　（上段：人）

		問１）　年齢							
問４）回答者の子ども	合計	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
全体N値	1,191 100.0%	13 1.1%	86 7.2%	118 9.9%	217 18.2%	221 18.6%	211 17.7%	321 27.0%	4 0.3%
未就学児	93 100.0%	0 0.0%	12 12.9%	47 50.5%	24 25.8%	3 3.2%	1 1.1%	6 6.5%	0 0.0%
小学生	92 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	28 30.4%	40 43.5%	8 8.7%	5 5.4%	11 12.0%	0 0.0%
中学生	67 100.1%	0 0.0%	0 0.0%	6 9.0%	47 70.1%	5 7.5%	5 7.5%	4 6.0%	0 0.0%
高校生	63 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.6%	34 54.0%	20 31.7%	3 4.8%	5 7.9%	0 0.0%
大学生等	75 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	31 41.3%	38 50.7%	1 1.3%	5 6.7%	0 0.0%
社会人	513 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	17 3.3%	123 24.0%	161 31.4%	212 41.3%	0 0.0%
無回答	5 100.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	3 60.0%
子どもなし	283 100.1%	13 4.6%	73 25.8%	36 12.7%	24 8.5%	24 8.5%	35 12.4%	77 27.2%	1 0.4%

*網掛け表示は各項目の最大値

（５）教育への関心について

・ 子ども達の育つ環境や本市の小中学校の教育に関心がありますか。（１つ回答）

１．大いに関心がある　　２．まあまあ関心がある

３．あまり関心がない　　４．全く関心がない

［調査結果の概要］

○子育て環境や教育への関心は、ほとんどの人が「関心がある」計85.6%となっている。（大いに関心がある33.2%　＋　まあまあ関心がある52.4%　の計）

○子どもの有無別では、子どもなしの回答者が「関心がある」計75.2%で、子どもありの回答者の「関心がある」計88.8%と比べて約１４%ほど関心が低い。（図表２）

○年代別では、１０歳代以外の年代はいずれも関心が高い。（図表３）

図表２　　（上段：人）

		問５）　回答者の子どもと教育への関心				
問４）回答者の子ども	合計	大いに関心がある	まあまあ関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体N値	1,191 100.1%	395 33.2%	624 52.4%	140 11.8%	27 2.3%	5 0.4%
未就学児	93 100.0%	51 54.8%	42 45.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
小学生	92 100.0%	46 50.0%	44 47.8%	2 2.2%	0 0.0%	0 0.0%
中学生	67 100.0%	26 38.8%	39 58.2%	2 3.0%	0 0.0%	0 0.0%
高校生	63 100.1%	25 39.7%	34 54.0%	3 4.8%	1 1.6%	0 0.0%
大学生等	75 100.0%	22 29.3%	46 61.3%	5 6.7%	2 2.7%	0 0.0%
社会人	513 100.0%	155 30.2%	276 53.8%	69 13.5%	12 2.3%	1 0.2%
無回答	5 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	4 80.0%
子どもなし	283 99.9%	70 24.7%	143 50.5%	58 20.5%	12 4.2%	0 0.0%

*網掛け表示は各項目の最大値

図表３　　（上段：人）

		問５）　回答者の年齢と教育への関心				
問１）年齢	合計	大いに関心がある	まあまあ関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	1,028 99.9%	328 31.9%	535 52.0%	135 13.1%	25 2.4%	5 0.5%
10歳代	13 100.1%	2 15.4%	4 30.8%	3 23.1%	4 30.8%	0 0.0%
20歳代	86 99.9%	23 26.7%	42 48.8%	19 22.1%	2 2.3%	0 0.0%
30歳代	98 99.9%	44 44.9%	46 46.9%	7 7.1%	1 1.0%	0 0.0%
40歳代	138 100.0%	51 37.0%	73 52.9%	12 8.7%	2 1.4%	0 0.0%
50歳代	176 100.0%	44 25.0%	103 58.5%	27 15.3%	1 0.6%	1 0.6%
60歳代	205 100.1%	61 29.8%	109 53.2%	31 15.1%	4 2.0%	0 0.0%
70歳以上	308 100.0%	103 33.4%	157 51.0%	36 11.7%	11 3.6%	1 0.3%
無回答	4 100.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 75.0%

*網掛け表示は各項目の最大値

（６）教育環境の変化について

・ あなたの子どもの頃、若しくは以前と比べて、子どもを取り巻く環境はどうなっていると感じていますか。（各項目、１つ回答）

ア　家庭、保護者のしつけ　　イ　地域の子どもへの関わり
ウ　子ども同士の関わり　　エ　子どもの知識・学力
オ　子どもの安全　　カ　学校の施設・設備
キ　教職員の意欲・力量

（選択肢）　１．とても良くなった　２．良くなった　３．変わらない
４．悪くなった　５．とても悪くなった

［調査結果の概要］

○「ア 家庭、保護者のしつけ」は、以前に比べて「悪くなった」が最も高く、次いで「変わらない」となっている。

○「イ 地域の子どもへの関わり」と「ウ 子ども同士の関わり」は、以前に比べて「変わらない」が最も高く、次いで「悪くなった」となっている。

○「エ 子どもの知識・学力」は、以前に比べて「良くなった」が最も高く、次いで「変わらない」となっている。

○「オ 子どもの安全」は、以前に比べて「良くなった」と「悪くなった」が、同じ率であり、意見が分かれている。

○「カ 学校の施設・整備」は、以前に比べて「良くなった」が最も高く、次いで「とても良くなった」となっている。

○「キ 教職員の意欲・力量は、以前に比べて「変わらない」が最も高く、次いで「良くなった」となっている。

図表４

問６）　教育環境の変化について	とても良くなった	良くなった	変わらない	悪くなった	とても悪くなった	無回答
ア 家庭、保護者のしつけ	3.5%	19.2%	34.1%	37.9%	3.7%	1.6%
イ 地域の子どもへの関わり	2.1%	22.2%	37.3%	34.0%	2.6%	1.8%
ウ 子ども同士の関わり	1.5%	11.7%	47.0%	33.7%	2.9%	3.3%
エ 子どもの知識・学力	3.8%	41.1%	39.8%	11.1%	0.8%	3.4%
オ 子どもの安全	4.1%	32.7%	24.0%	32.7%	5.4%	1.2%
カ 学校の施設・設備	21.3%	60.0%	15.1%	1.2%	0.5%	1.9%
キ 教職員の意欲・力量	3.5%	27.1%	49.0%	14.2%	1.3%	4.9%

*網掛け表示は各項目の最大値

（７）家庭・学校・地域の役割について

・ 子ども達が健やかに育つには、主にどこでの役割が重要だと思いますか。項目ごとに、最も重要だと思うものと、次に重要だと思うものを選んでください。（各項目、１つ回答）

ア　規則正しい基本的な生活習慣　　イ　善悪を判断し、社会のルールを守る能力
ウ　他者(人や命)を思いやる気持ち　　エ　人と協力し、仲良く付き合う態度や能力
オ　基礎的な学力や知識　　カ　自ら学ぼうとする意欲
キ　郷土を愛する気持ち・態度　　ク　スポーツや芸術文化に関する知識や体験
ケ　正しい食生活の習慣　　コ　自分自身の健康管理
サ　子どもの不安や悩みの解消　　シ　不登校やいじめの未然防止

（選択肢）　１．家庭･保護者　　２．学校　　３．地域

［調査結果の概要］

項　目	結果概要
ア　規則正しい基本的な生活習慣	最も重要な役割を担うのは「家庭・保護者」とする意見が約８０％～９０％と最も高い。次いで「学校」が約５％～１７％となっている。
イ　善悪を判断し、社会のルールを守る能力	
ウ　他者(人や命)を思いやる気持ち	
エ　人と協力し、仲良く付き合う態度や能力	最も重要な役割を担うのは「学校」とする意見が約４８％であるが、次いで「家庭・保護者」も約４６％あり、ほぼ同じ率となっている。次に重要な役割を担うべきは「地域」が約３８％となっていることから、「地域」に役割を求める意見もあることが伺える。
オ　基礎的な学力や知識	最も重要な役割を担うのは「学校」とする意見が約８１％と最も高い。次いで「家庭・保護者」が約１８％となっている。
カ　自ら学ぼうとする意欲	最も重要な役割を担うのは「家庭・保護者」とする意見が約５１％であるが、次いで「学校」も約４６％あり、ほぼ同じ率となっている。
キ　郷土を愛する気持ち・態度	最も重要な役割を担うのは「家庭・保護者」とする意見が約４５％と最も高い。次いで「地域」が約３５％となっている。
ク　スポーツや芸術文化に関する知識や体験	最も重要な役割を担うのは「学校」とする意見が約６０％であり、次いで「家庭・保護者」が約２７％となっている。また、次に重要な役割を担うべきは「地域」が約４１％となっていることから、「地域」への期待もあることが伺える。
ケ　正しい食生活の習慣	最も重要な役割を担うのは「家庭・保護者」とする意見が約８０％～９０％と最も高い。次いで「学校」が約３％～１６％となっている。
コ　自分自身の健康管理	
サ　子どもの不安や悩みの解消	
シ　不登校やいじめの未然防止	最も重要な役割を担うのは「学校」とする意見が約５６％と最も高い。次いで「家庭・保護者」が約４１％となっている。

図表５

問７）　家庭・学校・地域の役割について	最も重要な役割			次に重要な役割		
	家庭・保護者	学校	地域	家庭・保護者	学校	地域
ア　規則正しい基本的な生活習慣	91.7%	5.5%	1.6%	5.6%	77.3%	13.2%
イ　善悪を判断し、社会のルールを守る能力	79.1%	16.6%	3.1%	14.2%	61.4%	20.7%
ウ　他者(人や命)を思いやる気持ち	80.8%	15.8%	2.4%	13.5%	65.2%	17.7%
エ　人と協力し、仲良く付き合う態度や能力	46.1%	48.2%	4.7%	22.6%	35.6%	38.3%
オ　基礎的な学力や知識	17.5%	81.4%	0.2%	75.3%	16.3%	5.1%
カ　自ら学ぼうとする意欲	50.9%	46.3%	1.7%	40.8%	48.1%	7.4%
キ　郷土を愛する気持ち・態度	45.1%	18.8%	34.7%	25.1%	28.0%	43.4%
ク　スポーツや芸術文化に関する知識や体験	26.6%	59.6%	12.7%	28.6%	26.9%	41.1%
ケ　正しい食生活の習慣	92.6%	6.4%	0.2%	6.3%	86.8%	3.0%
コ　自分自身の健康管理	96.0%	2.6%	0.3%	3.1%	87.3%	5.4%
サ　子どもの不安や悩みの解消	81.0%	16.0%	2.0%	13.6%	75.8%	7.7%
シ　不登校やいじめの未然防止	40.7%	55.7%	2.4%	44.5%	37.9%	14.5%

*網掛け表示は各項目の最大値

（８）子ども達にとって重要な学習環境について

・ 本市で育つ子ども達にとって、小中学校でどのような学習環境が重要だと思いますか。（各項目、１つ回答）

ア　人間関係が固定化せず、様々な個性を持った多くの友達とふれあうこと
イ　互いに切磋琢磨することで、向上意欲が喚起される環境にあること
ウ　習熟度に応じた少人数指導や複数の教員によるきめ細かな授業を実施すること
エ　児童会・生徒会活動等で、子ども達１人１人が役割をもち、主体的に活動すること
オ　体育大会、学校祭、合唱コンクール等の集団活動が多くの人数のもと活発に行われること
カ　情報教育や国際理解教育など、これからの時代に必要な学習が行われること
キ　教職員がお互いに切磋琢磨し、意欲的に教育活動を実践していくこと
ク　積極的な情報公開や保護者・学校・地域との連携を進め、地域と一体となった教育活動が行われること
ケ　生徒指導や部活動に十分な教職員を確保・配置すること

（選択肢）　１．とても重要　　２．どちらかというと重要
　　３．あまり重要とは言えない　　４．重要ではない

［調査結果の概要］

○すべての項目で「とても重要」と「どちらかというと重要」を合わせた回答が８～９割と高い割合を示している。

○「とても重要」が最も高いのは、
「ア　人間関係が固定化せず、様々な個性を持った多くの友達とふれあうこと」
「キ　教職員がお互いに切磋琢磨し、意欲的に教育活動を実践していくこと」
となっている。

○一方、
「ウ　習熟度に応じた少人数指導や複数の教員によるきめ細かな授業を実施すること」
を「とても重要」とする意見は約３７％となっている。

○「イ」「エ」「オ」「カ」「ク」「ケ」を「とても重要」とする意見は、ほぼ同じ率であるが、「どちらかというと重要」という意見との合計では、
「ウ　習熟度に応じた少人数指導や複数の教員によるきめ細かな授業を実施すること」
「ケ　生徒指導や部活動に十分な教職員を確保・配置すること」
が他と比べて低くなっている。

○また、回答者全体と小学生・中学生保護者とを比較すると、
「カ　情報教育や国際理解教育など、これからの時代に必要な学習が行われること」
「ク　積極的な情報公開や保護者・学校・地域との連携を進め、地域と一体となった教育活動が行われること」
について、回答者全体では「とても重要」の割合が高かったが、小学生・中学生の保護者では「どちらかというと重要」の割合が高くなっており、相違が見られる。

図表６

問８）	子ども達にとって重要な学習環境について	とても重要	どちらかというと重要	あまり重要とは言えない	重要ではない	無回答
ア	人間関係が固定化せず、様々な個性を持った多くの友達とふれあうこと	52.2%	39.2%	7.3%	0.9%	0.4%
イ	互いに切磋琢磨することで、向上意欲が喚起される環境にあること	48.2%	43.8%	7.1%	0.3%	0.6%
ウ	習熟度に応じた少人数指導や複数の教員によるきめ細かな授業を実施すること	37.1%	46.7%	13.9%	1.7%	0.7%
エ	児童会・生徒会活動等で、子ども達１人１人が役割をもち、主体的に活動すること	45.4%	46.3%	7.2%	0.5%	0.6%
オ	体育大会、学校祭、合唱コンクール等の集団活動が多くの人数のもと活発に行われること	46.0%	42.4%	9.8%	1.3%	0.5%
カ	情報教育や国際理解教育など、これからの時代に必要な学習が行われること	46.7%	45.7%	6.2%	0.9%	0.5%
キ	教職員がお互いに切磋琢磨し、意欲的に教育活動を実践していくこと	52.6%	36.0%	9.9%	0.8%	0.7%
ク	積極的な情報公開や保護者・学校・地域との連携を進め、地域と一体となった教育活動が行われること	46.6%	41.7%	10.2%	0.7%	0.8%
ケ	生徒指導や部活動に十分な教職員を確保・配置すること	43.4%	41.8%	12.4%	1.7%	0.8%

*網掛け表示は各項目の最大値

図表７　小学生・中学生の保護者に限定

問８）	子ども達にとって重要な学習環境について	とても重要	どちらかというと重要	あまり重要とは言えない	重要ではない	無回答
ア	人間関係が固定化せず、様々な個性を持った多くの友達とふれあうこと	46.5%	46.5%	6.3%	0.6%	0.0%
イ	互いに切磋琢磨することで、向上意欲が喚起される環境にあること	52.2%	40.3%	6.9%	0.0%	0.6%
ウ	習熟度に応じた少人数指導や複数の教員によるきめ細かな授業を実施すること	38.4%	45.9%	13.8%	1.3%	0.6%
エ	児童会・生徒会活動等で、子ども達１人１人が役割をもち、主体的に活動すること	39.0%	54.1%	6.9%	0.0%	0.0%
オ	体育大会、学校祭、合唱コンクール等の集団活動が多くの人数のもと活発に行われること	49.1%	43.4%	5.7%	1.9%	0.0%
カ	情報教育や国際理解教育など、これからの時代に必要な学習が行われること	45.9%	48.4%	4.4%	1.3%	0.0%
キ	教職員がお互いに切磋琢磨し、意欲的に教育活動を実践していくこと	54.1%	35.8%	9.4%	0.6%	0.0%
ク	積極的な情報公開や保護者・学校・地域との連携を進め、地域と一体となった教育活動が行われること	39.6%	52.2%	6.9%	0.6%	0.6%
ケ	生徒指導や部活動に十分な教職員を確保・配置すること	50.3%	36.5%	11.3%	1.3%	0.6%

*網掛け表示は各項目の最大値

（９）教職員に期待することについて

・ 本市の小中学校の教職員にどのようなことを期待しますか。（主なもの３つまで回答）

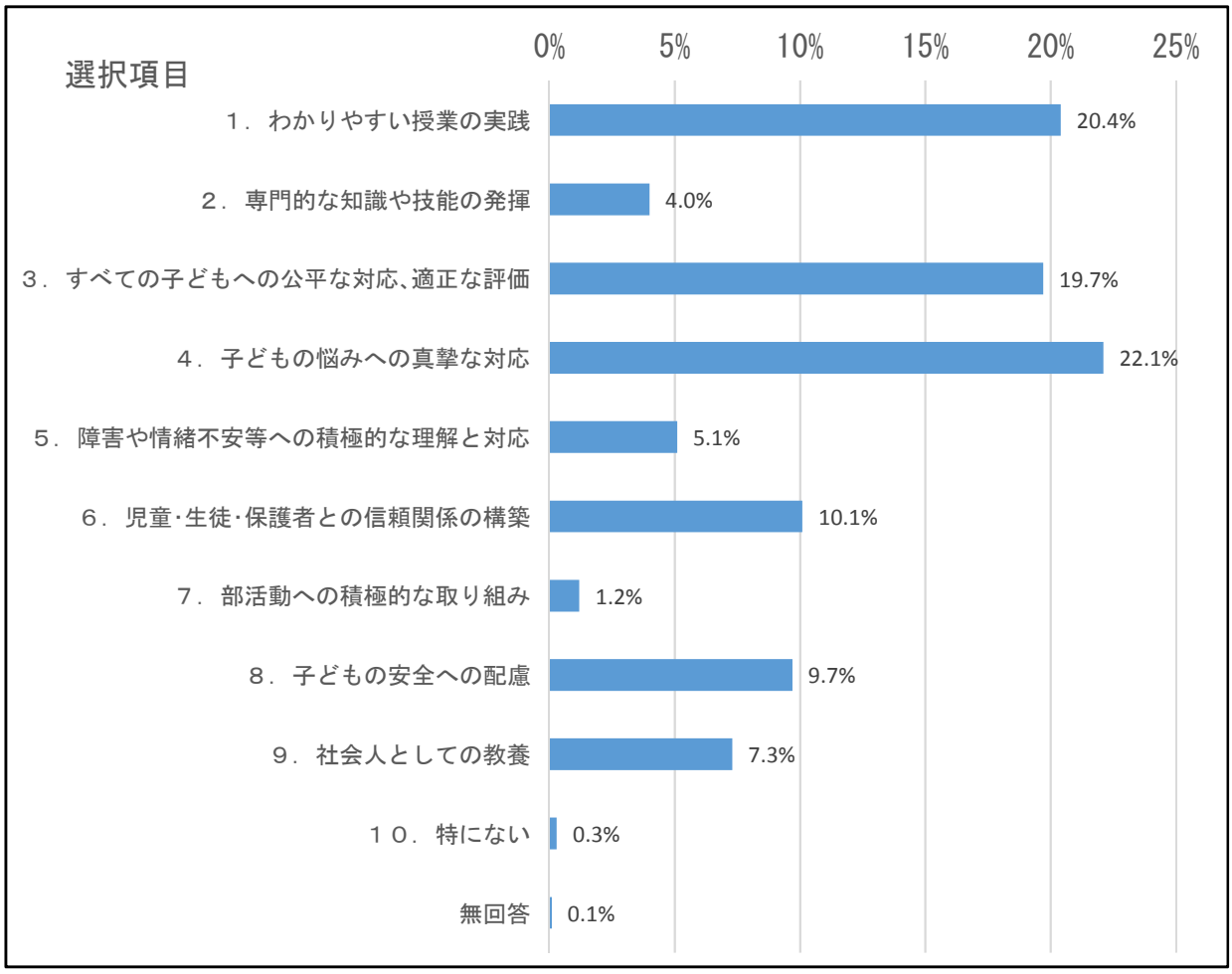
１．わかりやすい授業の実践
２．専門的な知識や技能の発揮
３．すべての子どもへの公平な対応、適正な評価
４．子どもの悩み（友達関係・いじめ・進路・非行など）への真摯な対応
５．障害や情緒不安などへの積極的な理解と対応
６．児童・生徒・保護者との信頼関係の構築
７．部活動への積極的な取り組み
８．子どもの安全（危機管理）への配慮
９．社会人としての教養
１０．特にない

［調査結果の概要］

○教職員に対する期待は、「子どもの悩みへの真摯な対応」「わかりやすい授業の実践」「すべての子どもへの公平な対応、適正な評価」の割合がそれぞれ高い。（図表８）

○回答者を小学生と中学生の保護者について見ても、回答者全体と同様の項目への期待が高い。（図表９）

図表８　教職員に期待することについて



図表９　　（上段：人）

問４）回答者の子ども	合計	問９）教職員に期待することについて 1．わかりやすい授業の実践	2．専門的な知識や技能の発揮	3．すべての子どもへの公平な対応、適正な評価	4．子どもの悩みへの真摯な対応	5．障害や情緒不安等への積極的な理解と対応	6．児童・生徒・保護者との信頼関係の構築	7．部活動への積極的な取り組み	8．子どもの安全への配慮	9．社会人としての教養	10．特にない	無回答
全体Ｎ値	3,513 100.0%	716 20.4%	142 4.0%	693 19.7%	778 22.1%	179 5.1%	354 10.1%	42 1.2%	341 9.7%	255 7.3%	9 0.3%	4 0.1%
未就学児	275 100.0%	58 21.1%	9 3.3%	54 19.6%	66 24.0%	11 4.0%	21 7.6%	0 0.0%	39 14.2%	17 6.2%	0 0.0%	0 0.0%
小学生	268 100.0%	58 21.6%	10 3.7%	50 18.7%	66 24.6%	13 4.9%	24 9.0%	4 1.5%	28 10.4%	14 5.2%	0 0.0%	1 0.4%
中学生	196 100.1%	46 23.5%	14 7.1%	28 14.3%	39 19.9%	9 4.6%	19 9.7%	5 2.6%	16 8.2%	20 10.2%	0 0.0%	0 0.0%
高校生	186 100.1%	42 22.6%	10 5.4%	34 18.3%	38 20.4%	11 5.9%	20 10.8%	4 2.2%	13 7.0%	13 7.0%	1 0.5%	0 0.0%
大学生等	218 99.9%	48 22.0%	13 6.0%	39 17.9%	50 22.9%	11 5.0%	21 9.6%	0 0.0%	16 7.3%	20 9.2%	0 0.0%	0 0.0%
社会人	1,519 100.3%	297 19.6%	51 3.4%	330 21.7%	337 22.2%	77 5.1%	165 10.9%	19 1.3%	150 9.9%	88 5.8%	4 0.3%	1 0.1%
無回答	12 100.0%	1 8.3%	2 16.7%	0 0.0%	3 25.0%	2 16.7%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 16.7%	0 0.0%	1 8.3%
子どもなし	839 100.0%	166 19.8%	33 3.9%	158 18.8%	179 21.3%	45 5.4%	83 9.9%	10 1.2%	79 9.4%	81 9.7%	4 0.5%	1 0.1%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別　　（上段：人）

小学校区	合計	問９）教職員に期待することについて 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	無回答
全体	3,021 100.0%	609 20.2%	116 3.8%	603 20.0%	670 22.2%	152 5.0%	307 10.2%	34 1.1%	300 9.9%	219 7.2%	8 0.3%	3 0.1%
石動小	1,032 100.1%	208 20.2%	42 4.1%	202 19.6%	216 20.9%	44 4.3%	124 12.0%	17 1.6%	95 9.2%	80 7.8%	2 0.2%	2 0.2%
東部小	322 100.0%	65 20.2%	16 5.0%	63 19.6%	75 23.3%	14 4.3%	37 11.5%	2 0.6%	31 9.6%	17 5.3%	1 0.3%	1 0.3%
大谷小	713 99.9%	139 19.5%	29 4.1%	146 20.5%	160 22.4%	33 4.6%	68 9.5%	5 0.7%	83 11.6%	49 6.9%	1 0.1%	0 0.0%
蟹谷小	449 100.1%	91 20.3%	16 3.6%	99 22.0%	100 22.3%	32 7.1%	29 6.5%	4 0.9%	47 10.5%	28 6.2%	3 0.7%	0 0.0%
津沢小	505 100.0%	106 21.0%	13 2.6%	93 18.4%	119 23.6%	29 5.7%	49 9.7%	6 1.2%	44 8.7%	45 8.9%	1 0.2%	0 0.0%

*網掛け表示は各項目の最大値

（１０）学校と地域との関係について

・ 学校が地域に果たす役割について、どのように考えますか。（各項目、１つ回答）

ア　避難所としての機能
イ　住民のスポーツ活動の場としての機能
ウ　スポーツ少年団等の子ども達の活動の場としての機能
エ　住民運動会など、住民のコミュニティ活動の拠点としての機能
オ　地域のシンボル、心の拠り所としての機能

（選択肢）　１．とても重要　２．重要　３．どちらともいえない
４．あまり重要とは言えない　５．重要ではない

［調査結果の概要］

○「とても重要」とする割合が高かったのは、「ア　避難所としての機能」であり、39.8％となっている。次が「イ　スポーツ少年団等の子ども達の活動の場としての機能」であり、22.2％となっている。

「イ　住民のスポーツ活動の場としての機能」「エ　住民運動会など、住民のコミュニティ活動の拠点としての機能」「オ　地域のシンボル、心の拠り所としての機能」については、共に「重要」とする意見が最も高いが、「どちらとも言えない」が共に約３３％となっている。（図表１０）

○回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「ア　避難所としての機能」を「とても重要」とする割合が高くなっている。

回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「イ　住民のスポーツ活動の場としての機能」「ウ　スポーツ少年団等の子ども達の活動の場としての機能」「オ　地域のシンボル、心の拠り所としての機能」を共に「重要」とする意見が最も高い。（図表１１）

図表１０

問１０）学校と地域との関係について		とても重要	重要	どちらとも言えない	あまり重要とは言えない	重要ではない	無回答
ア	避難所としての機能	39.8%	43.8%	12.5%	2.9%	0.7%	0.4%
イ	住民のスポーツ活動の場としての機能	12.9%	43.7%	33.1%	8.2%	1.7%	0.5%
ウ	スポーツ少年団等の子ども達の活動の場としての機能	22.2%	51.6%	21.4%	3.4%	1.0%	0.5%
エ	住民運動会など、住民のコミュニティ活動の拠点としての機能	14.3%	42.1%	33.3%	7.1%	2.8%	0.4%
オ	地域のシンボル、心の拠り所としての機能	13.9%	39.8%	33.2%	9.0%	3.5%	0.6%

*網掛け表示は各項目の最大値

図表１１　小学生・中学生の保護者に限定

問１０）　学校と地域との関係について		とても重要	重要	どちらとも言えない	あまり重要とは言えない	重要ではない	無回答
ア	避難所としての機能	49.1%	36.5%	7.5%	5.7%	1.3%	0.0%
イ	住民のスポーツ活動の場としての機能	14.5%	44.7%	32.7%	5.0%	3.1%	0.0%
ウ	スポーツ少年団等の子ども達の活動の場としての機能	26.4%	45.3%	22.6%	4.4%	1.3%	0.0%
エ	住民運動会など、住民のコミュニティ活動の拠点としての機能	17.0%	36.5%	37.1%	5.0%	4.4%	0.0%
オ	地域のシンボル、心の拠り所としての機能	13.8%	39.6%	36.5%	5.7%	4.4%	0.0%

*網掛け表示は各項目の最大値

（１１）学校と地域との関わりについて

・ 学校と地域との関わりで、どのようなことが重要だと考えますか。（主なもの３つまで回答）

（選択肢）

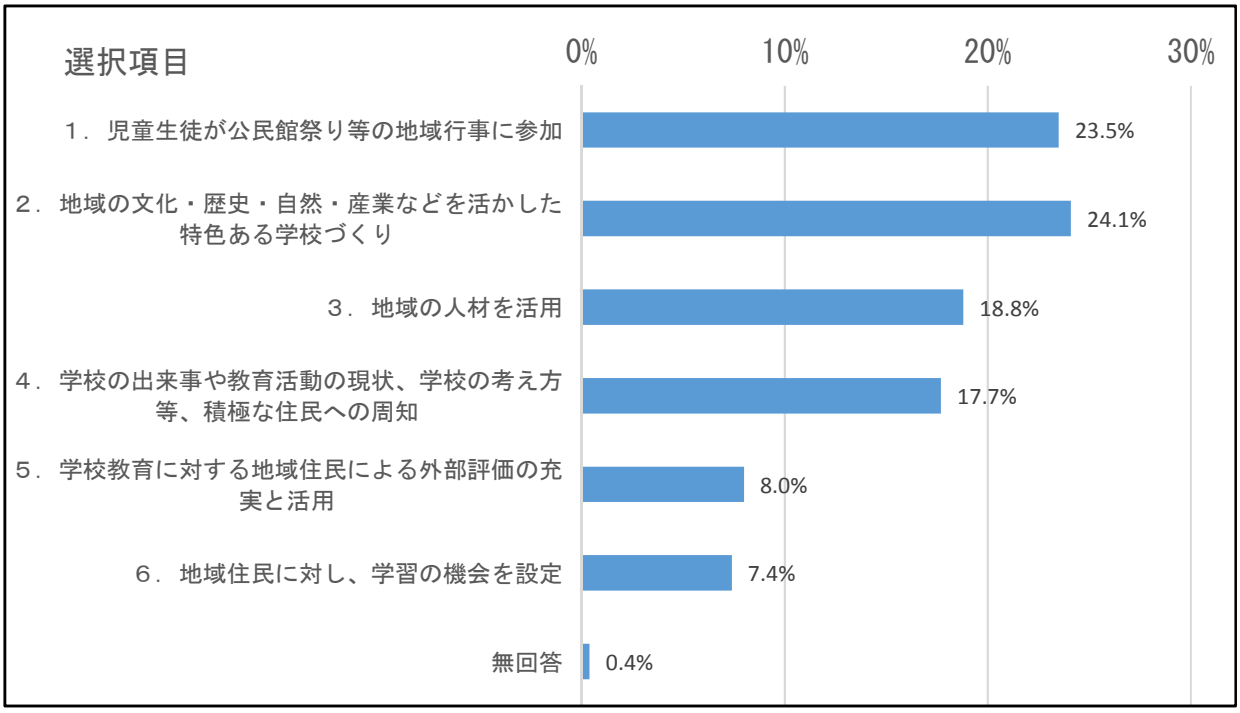
１．児童生徒が公民館祭り等の地域行事に参加する。
２．地域の文化・歴史・自然・産業などを活かした特色ある学校づくりをすすめる。
３．地域の人材を活用する。
４．学校の出来事や教育活動の現状、学校の考え方等をより積極的に住民に知らせる。
５．学校教育に対する地域住民による外部評価の充実と活用を図る。
６．地域住民に対し、学習の機会を設ける。

［調査結果の概要］

○学校と地域との関わりで重要なことは、「地域の文化・歴史・自然・産業などを活かした特色ある学校づくり」「児童生徒が公民館祭り等の地域行事に参加」「地域の人材を活用」の順に割合が高い。（図表１２）

○回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「児童生徒が公民館祭り等の地域行事に参加」の割合が最も高いが、回答者全体と、ほぼ同様の傾向となっている。（図表１３）

図表１２　　学校と地域との関わりについて



図表１３　（上段：人）

		問１１）　学校と地域との関わりについて						
問４）回答者の子ども	合計	１．地域行事に児童生徒が公民館祭り等に参加	２．地域の文化・歴史・自然・産業などを活かした特色ある学校づくり	３．地域の人材を活用	４．学校の出来事や教育活動の現状、学校の考え方等、積極な住民への周知	５．学校教育に対する地域住民による外部評価の充実と活用	６．地域住民に対し、学習の機会を設定	無回答
全体Ｎ値	3,215 99.9%	757 23.5%	776 24.1%	605 18.8%	569 17.7%	257 8.0%	237 7.4%	14 0.4%
未就学児	249 100.0%	68 27.3%	58 23.3%	47 18.9%	36 14.5%	24 9.6%	15 6.0%	1 0.4%
小学生	251 100.0%	72 28.7%	58 23.1%	52 20.7%	41 16.3%	14 5.6%	13 5.2%	1 0.4%
中学生	179 100.0%	48 26.8%	44 24.6%	31 17.3%	30 16.8%	11 6.1%	15 8.4%	0 0.0%
高校生	170 100.0%	42 24.7%	43 25.3%	35 20.6%	24 14.1%	12 7.1%	14 8.2%	0 0.0%
大学生等	195 100.1%	43 22.1%	56 28.7%	45 23.1%	25 12.8%	13 6.7%	13 6.7%	0 0.0%
社会人	1,387 100.0%	311 22.4%	334 24.1%	263 19.0%	266 19.2%	108 7.8%	99 7.1%	6 0.4%
無回答	11 100.1%	1 9.1%	3 27.3%	3 27.3%	2 18.2%	0 0.0%	1 9.1%	1 9.1%
子どもなし	773 100.1%	172 22.3%	180 23.3%	129 16.7%	145 18.8%	75 9.7%	67 8.7%	5 0.6%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別　（上段：人）

		問１１）　学校と地域との関わりについて						
小学校区	合計	1	2	3	4	5	6	無回答
全体	2,765 100.1%	641 23.2%	663 24.0%	507 18.3%	504 18.2%	231 8.4%	206 7.5%	13 0.5%
石動小	937 100.0%	208 22.2%	228 24.3%	162 17.3%	172 18.4%	87 9.3%	77 8.2%	3 0.3%
東部小	295 100.1%	63 21.4%	79 26.8%	56 19.0%	50 16.9%	27 9.2%	18 6.1%	2 0.7%
大谷小	659 100.0%	163 24.7%	143 21.7%	134 20.3%	114 17.3%	58 8.8%	44 6.7%	3 0.5%
蟹谷小	413 100.0%	99 24.0%	97 23.5%	75 18.2%	81 19.6%	32 7.7%	28 6.8%	1 0.2%
津沢小	461 100.2%	108 23.4%	116 25.2%	80 17.4%	87 18.9%	27 5.9%	39 8.5%	4 0.9%

*網掛け表示は各項目の最大値

（１２）地域の学校への協力について

・ 地域は学校に対して、どのような協力をするべきだと考えますか。（主なもの３つまで回答）

（選択肢）

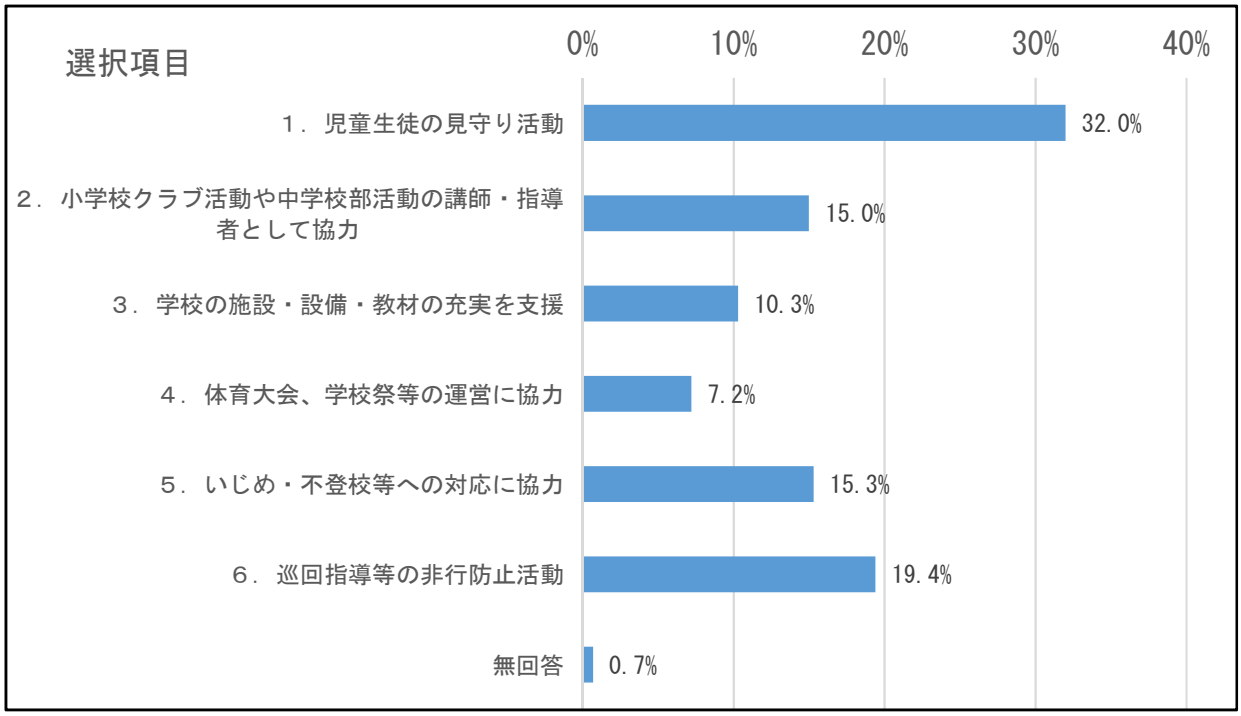
１．児童生徒の見守り活動を行う。
２．小学校クラブ活動や中学校部活動の講師・指導者として協力する。
３．学校の施設・設備・教材の充実を支援する。
４．体育大会、学校祭等の運営に協力する。
５．いじめ・不登校等への対応に協力する。
６．巡回指導等の非行防止活動を行う。

［調査結果の概要］

○地域の学校への協力で重要なことは、「児童生徒の見守り活動」が　32.0%と高く、次に「巡回指導等の非行防止活動」「いじめ・不登校等への対応に協力」の順となっている。（図表１４）

○回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「児童生徒の見守り活動」とする割合がそれぞれ　33.3%　と　31.9%　となり、回答者全体と同様に高くなっている。（図表１５）

図表１４　　地域の学校への協力について



図表１５　（上段：人）

		問１２）　地域の学校への協力について						
問４）回答者の子ども	合計	１．児童生徒の見守り活動	２．小学校クラブ活動や中学校部活動の講師・指導者として協力	３．学校の施設・設備・教材の充実を支援	４．体育大会、学校祭等の運営に協力	５．いじめ・不登校等への対応に協力	６．巡回指導等の非行防止活動	無回答
全体Ｎ値	3,243 99.9%	1,038 32.0%	488 15.0%	335 10.3%	234 7.2%	497 15.3%	629 19.4%	22 0.7%
未就学児	255 100.0%	82 32.2%	40 15.7%	23 9.0%	23 9.0%	32 12.5%	54 21.2%	1 0.4%
小学生	252 100.0%	84 33.3%	46 18.3%	25 9.9%	15 6.0%	30 11.9%	51 20.2%	1 0.4%
中学生	182 100.0%	58 31.9%	37 20.3%	22 12.1%	13 7.1%	20 11.0%	32 17.6%	0 0.0%
高校生	168 99.9%	50 29.8%	34 20.2%	17 10.1%	14 8.3%	20 11.9%	32 19.0%	1 0.6%
大学生等	200 100.0%	69 34.5%	40 20.0%	18 9.0%	13 6.5%	22 11.0%	38 19.0%	0 0.0%
社会人	1,408 100.1%	456 32.4%	181 12.9%	143 10.2%	96 6.8%	241 17.1%	280 19.9%	11 0.8%
無回答	13 100.1%	3 23.1%	1 7.7%	0 0.0%	1 7.7%	4 30.8%	3 23.1%	1 7.7%
子どもなし	765 99.9%	236 30.8%	109 14.2%	87 11.4%	59 7.7%	128 16.7%	139 18.2%	7 0.9%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別　（上段：人）

		問１２）　地域の学校への協力について						
小学校区	合計	1	2	3	4	5	6	無回答
全体	2,785 100.1%	890 32.0%	400 14.4%	288 10.3%	198 7.1%	448 16.1%	540 19.4%	21 0.8%
石動小	940 100.0%	312 33.2%	128 13.6%	88 9.4%	59 6.3%	168 17.9%	179 19.0%	6 0.6%
東部小	288 100.1%	94 32.6%	42 14.6%	28 9.7%	18 6.3%	52 18.1%	50 17.4%	4 1.4%
大谷小	675 100.0%	212 31.4%	94 13.9%	81 12.0%	52 7.7%	99 14.7%	132 19.6%	5 0.7%
蟹谷小	416 100.0%	128 30.8%	64 15.4%	43 10.3%	33 7.9%	63 15.1%	83 20.0%	2 0.5%
津沢小	466 100.1%	144 30.9%	72 15.5%	48 10.3%	36 7.7%	66 14.2%	96 20.6%	4 0.9%

*網掛け表示は各項目の最大値

（１３）学級数や児童生徒数の影響について

・ 小中学校において学級数や児童生徒数が少ない場合について、どのように考えますか。（１つ回答）

（選択肢）

１.子ども一人ひとりの役割が大きくなり、責任をもった行動が期待できる
２.子どもの人数が減ることで、教師の丁寧な指導が期待できる
３.子ども一人ひとりが大事にされ、深い愛情を受けて育つことが期待できる
４.子どもの人数や学級の減少により､子ども同士で高めあう活気が薄れることが不安である
５.友達や教師と交わる機会が減り､子どもが多様な見方を育みにくくなることが不安である
６.子どもの人数や学級数の減少に伴って教師の人数が減ることで､子どもへの多様な支援ができなくなることが不安である

［調査結果の概要］

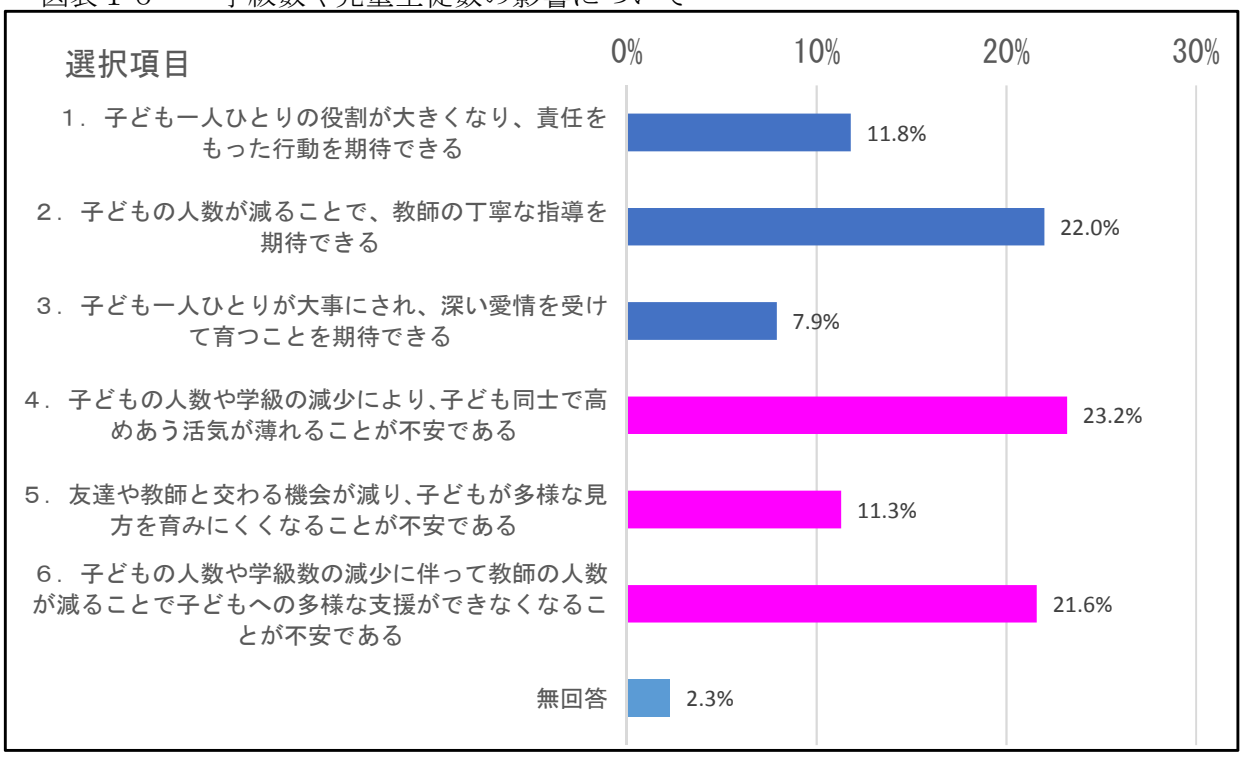
○回答者全体で見ると、学級数や学級の人数が減ることによるデメリットを懸念する意見（回答４～６の計）が56.1%であり、メリットを感じる意見（回答１～３の計）の41.7%を若干上回っている。（図表１６）

○回答者を小学生の保護者について見ると、回答者全体の傾向とほぼ同様となっている。

○回答者を中学生の保護者について見ると、デメリットを懸念する意見（回答４～６の計）が67.2%であり、メリットを感じる意見（回答１～３の計）の32.9%を大きく上回っている。

中学生保護者では「子どもの人数や学級数の減少に伴って教師の人数が減ることで、子どもへの多様な支援ができなくなることが不安である」に対する割合が32.8%と高くなっており、子どもが小学生から中学生へ成長する過程で、保護者の感じ方が変化している。（図表１７）

図表１６　　学級数や児童生徒数の影響について



図表１７　　（上段：人）

問４）回答者の子ども	合計	問１３）学級数や児童生徒数の影響について １．子ども一人ひとりの役割が大きくなり、責任をもった行動を期待できる	２．子どもの人数が減ることで、教師の丁寧な指導を期待できる	３．子ども一人ひとりが大事にされ、深い愛情を受けて育つことを期待できる	計	４．子どもの人数や学級の減少により、子ども同士で高めあう活気が薄れることが不安である	５．友達や教師と交わる機会が減り、子どもが多様な見方を育みにくくなることが不安である	６．子どもの人数や学級数の減少に伴って教師の人数が減ることで子どもへの多様な支援ができなくなることが不安である	計	無回答
全体N値	1,191 100.1%	141 11.8%	262 22.0%	94 7.9%	41.7%	276 23.2%	134 11.3%	257 21.6%	56.1%	27 2.3%
未就学児	93 100.0%	8 8.6%	24 25.8%	11 11.8%	46.2%	24 25.8%	14 15.1%	11 11.8%	52.7%	1 1.1%
小学生	92 100.1%	14 15.2%	18 19.6%	7 7.6%	42.4%	19 20.7%	8 8.7%	24 26.1%	55.5%	2 2.2%
中学生	67 100.1%	4 6.0%	13 19.4%	5 7.5%	32.9%	17 25.4%	6 9.0%	22 32.8%	67.2%	0 0.0%
高校生	63 100.1%	3 4.8%	19 30.2%	2 3.2%	38.2%	18 28.6%	6 9.5%	13 20.6%	58.7%	2 3.2%
大学生等	75 99.9%	7 9.3%	13 17.3%	10 13.3%	39.9%	22 29.3%	5 6.7%	16 21.3%	57.3%	2 2.7%
社会人	513 100.0%	68 13.3%	101 19.7%	37 7.2%	40.2%	116 22.6%	58 11.3%	120 23.4%	57.3%	13 2.5%
無回答	5 100.0%	1 20.0%	3 60.0%	0 0.0%	80.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0.0%	1 20.0%
子どもなし	283 100.0%	36 12.7%	71 25.1%	22 7.8%	45.6%	60 21.2%	37 13.1%	51 18.0%	52.3%	6 2.1%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別　　（上段：人）

小学校区	合計	問１３）学級数や児童生徒数の影響について 1	2	3	計	4	5	6	計	無回答
全体	1,022 99.9%	129 12.6%	221 21.6%	81 7.9%	42.1%	235 23.0%	115 11.3%	217 21.2%	55.5%	24 2.3%
石動小	348 100.1%	42 12.1%	71 20.4%	25 7.2%	39.7%	90 25.9%	41 11.8%	71 20.4%	58.1%	8 2.3%
東部小	110 99.9%	18 16.4%	23 20.9%	11 10.0%	47.3%	27 24.5%	11 10.0%	16 14.5%	49.0%	4 3.6%
大谷小	241 99.9%	30 12.4%	60 24.9%	20 8.3%	45.6%	50 20.7%	20 8.3%	54 22.4%	51.4%	7 2.9%
蟹谷小	153 100.1%	20 13.1%	28 18.3%	7 4.6%	36.0%	33 21.6%	27 17.6%	37 24.2%	63.4%	1 0.7%
津沢小	170 100.0%	19 11.2%	39 22.9%	18 10.6%	44.7%	35 20.6%	16 9.4%	39 22.9%	52.9%	4 2.4%

*網掛け表示は各項目の最大値

（１４）小学校の学校規模について

・ 本市の状況をふまえ、小学校において１つの学年の学級数、１学級あたりの児童数は、どの程度が望ましいと考えますか。（各項目、１つ回答）

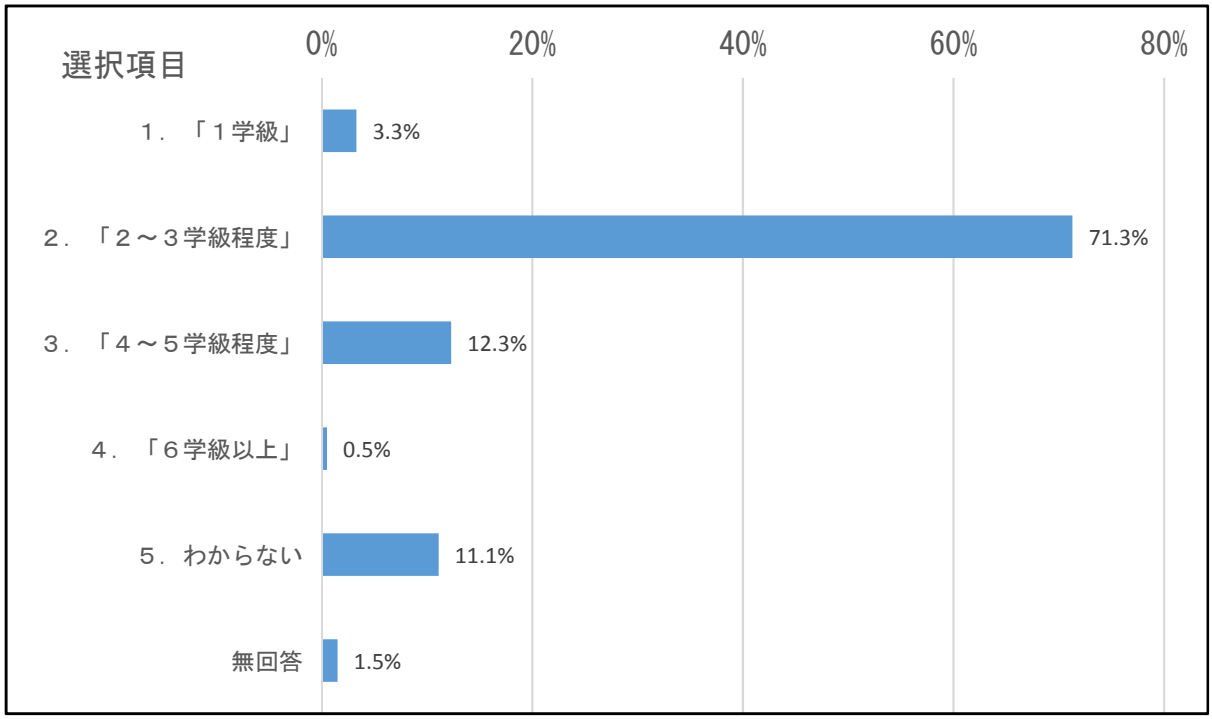
ア　小学校における１学年での望ましい学級数

（選択肢）　１．１学級　　２．２～３学級程度　　３．４～５学級程度
４．６学級以上　　５．わからない

［調査結果の概要］

〇小学校における１学年での望ましい学級数は「２～３学級程度」が　71.3%となっている。（図表１８）
〇回答者を未就学児と小学生の保護者について見ると、「２～３学級程度」を望む割合はそれぞれ　79.6%　と　79.3%　と更に高まっている。（図表１９）

図表１８　小学校における１学年での望ましい学級数



図表１９　　（上段：人）

		問１４）ア　小学校における１学年での望ましい学級数					
問４）回答者の子ども	合計	1.「1学級」	2.「2～3学級程度」	3.「4～5学級程度」	4.「6学級以上」	5.わからない	無回答
全体N値	1,191 100.0%	39 3.3%	849 71.3%	147 12.3%	6 0.5%	132 11.1%	18 1.5%
未就学児	93 100.1%	4 4.3%	74 79.6%	9 9.7%	0 0.0%	6 6.5%	0 0.0%
小学生	92 99.9%	4 4.3%	73 79.3%	12 13.0%	0 0.0%	2 2.2%	1 1.1%
中学生	67 100.0%	3 4.5%	50 74.6%	10 14.9%	0 0.0%	4 6.0%	0 0.0%
高校生	63 100.0%	0 0.0%	45 71.4%	14 22.2%	0 0.0%	3 4.8%	1 1.6%
大学生等	75 100.0%	2 2.7%	54 72.0%	13 17.3%	0 0.0%	5 6.7%	1 1.3%
社会人	513 100.1%	17 3.3%	357 69.6%	63 12.3%	1 0.2%	66 12.9%	9 1.8%
無回答	5 100.0%	1 20.0%	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%
子どもなし	283 100.1%	8 2.8%	193 68.2%	26 9.2%	5 1.8%	46 16.3%	5 1.8%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別　　（上段：人）

		問１４）ア　小学校における１学年での望ましい学級数					
小学校区	合計	1.「1学級」	2.「2～3学級程度」	3.「4～5学級程度」	4.「6学級以上」	5.わからない	無回答
全体	1,022 100.0%	34 3.3%	718 70.3%	121 11.8%	7 0.7%	125 12.2%	17 1.7%
石動小	348 99.9%	5 1.4%	226 64.9%	65 18.7%	2 0.6%	46 13.2%	4 1.1%
東部小	110 100.0%	6 5.5%	75 68.2%	13 11.8%	0 0.0%	13 11.8%	3 2.7%
大谷小	241 99.9%	6 2.5%	183 75.9%	20 8.3%	0 0.0%	29 12.0%	3 1.2%
蟹谷小	153 99.9%	10 6.5%	107 69.9%	10 6.5%	3 2.0%	21 13.7%	2 1.3%
津沢小	170 99.9%	7 4.1%	127 74.7%	13 7.6%	2 1.2%	16 9.4%	5 2.9%

*網掛け表示は各項目の最大値

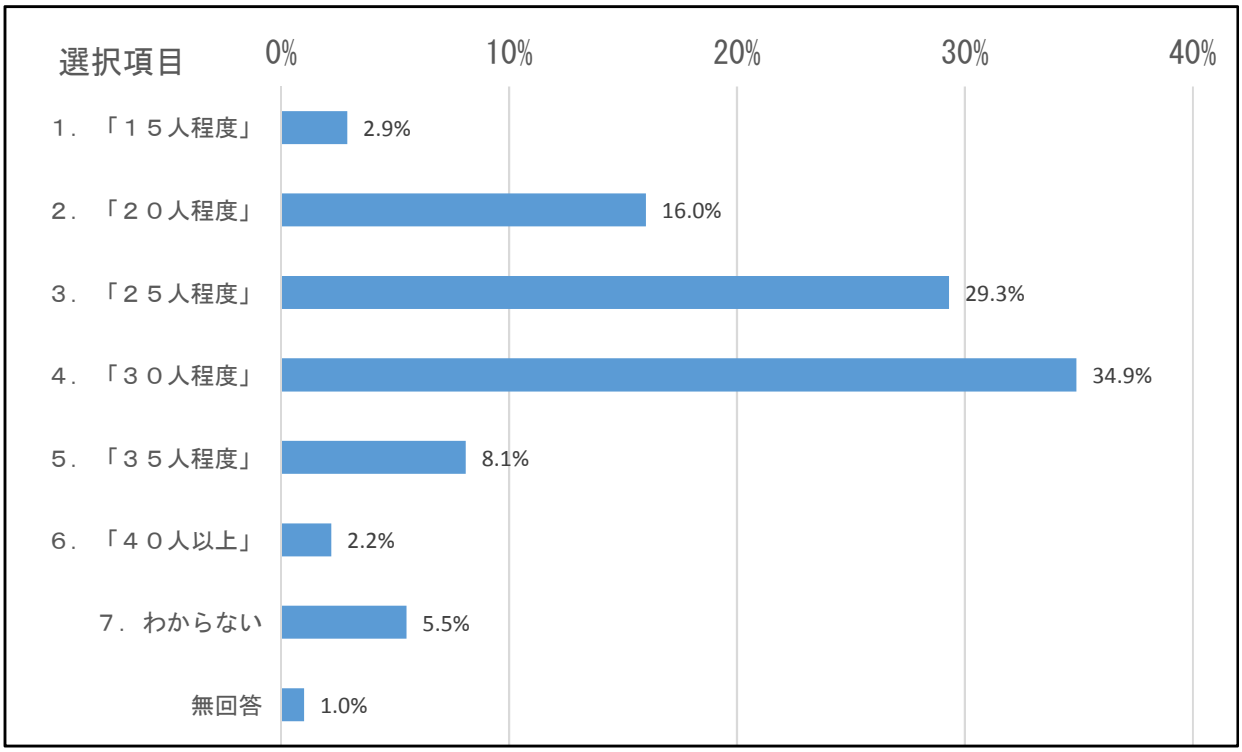
イ　小学校における１学級あたりの児童数

（選択肢）　１．１５人程度　　２．２０人程度　　３．２５人程度
　　４．３０人程度　　５．３５人程度　　６．４０人以下
　　７．わからない

［調査結果の概要］

○小学校における１学級あたりの望ましい児童数は「３０人程度」が　34.9%と高く、次いで「２５人程度」が　29.3%　となっている。（図表２０）
○回答者を未就学児と小学生の保護者について見ると、「２５人程度」を望む割合がそれぞれ　41.9%　と　32.6%　と最も高く、次いで「３０人程度」となっている。（図表２１）

図表２０　　小学校における１学級あたりの児童数



図表２１　（上段：人）

問４）回答者の子ども	合計	問１４）イ　小学校における１学級あたりの児童数 1.「15人程度」	2.「20人程度」	3.「25人程度」	4.「30人程度」	5.「35人程度」	6.「40人以上」	7.わからない	無回答
全体N値	1,191 99.9%	35 2.9%	191 16.0%	349 29.3%	416 34.9%	97 8.1%	26 2.2%	65 5.5%	12 1.0%
未就学児	93 100.1%	1 1.1%	19 20.4%	39 41.9%	21 22.6%	5 5.4%	2 2.2%	6 6.5%	0 0.0%
小学生	92 100.0%	3 3.3%	22 23.9%	30 32.6%	28 30.4%	5 5.4%	2 2.2%	1 1.1%	1 1.1%
中学生	67 100.1%	3 4.5%	11 16.4%	16 23.9%	29 43.3%	6 9.0%	1 1.5%	1 1.5%	0 0.0%
高校生	63 100.1%	3 4.8%	10 15.9%	14 22.2%	25 39.7%	8 12.7%	1 1.6%	2 3.2%	0 0.0%
大学生等	75 100.1%	3 4.0%	9 12.0%	21 28.0%	29 38.7%	9 12.0%	2 2.7%	2 2.7%	0 0.0%
社会人	513 99.9%	12 2.3%	70 13.6%	153 29.8%	194 37.8%	38 7.4%	9 1.8%	31 6.0%	6 1.2%
無回答	5 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%
子どもなし	283 99.9%	10 3.5%	50 17.7%	74 26.1%	89 31.4%	26 9.2%	8 2.8%	22 7.8%	4 1.4%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別　（上段：人）

小学校区	合計	問１４）イ　小学校における１学級あたりの児童数 1.「15人程度」	2.「20人程度」	3.「25人程度」	4.「30人程度」	5.「35人程度」	6.「40人以上」	7.わからない	無回答
全体	1,022 100.0%	29 2.8%	162 15.9%	303 29.6%	351 34.3%	81 7.9%	23 2.3%	61 6.0%	12 1.2%
石動小	348 100.0%	6 1.7%	37 10.6%	102 29.3%	137 39.4%	34 9.8%	7 2.0%	22 6.3%	3 0.9%
東部小	110 99.9%	7 6.4%	19 17.3%	37 33.6%	25 22.7%	5 4.5%	2 1.8%	12 10.9%	3 2.7%
大谷小	241 99.9%	3 1.2%	34 14.1%	67 27.8%	98 40.7%	16 6.6%	7 2.9%	14 5.8%	2 0.8%
蟹谷小	153 100.1%	5 3.3%	30 19.6%	42 27.5%	50 32.7%	10 6.5%	6 3.9%	9 5.9%	1 0.7%
津沢小	170 100.1%	8 4.7%	42 24.7%	55 32.4%	41 24.1%	16 9.4%	1 0.6%	4 2.4%	3 1.8%

*網掛け表示は各項目の最大値

（１５）中学校の学校規模について

・ 本市の状況をふまえ、中学校において１つの学年の学級数、１学級あたりの生徒数は、どの程度が望ましいと考えますか。（各項目、１つ回答）

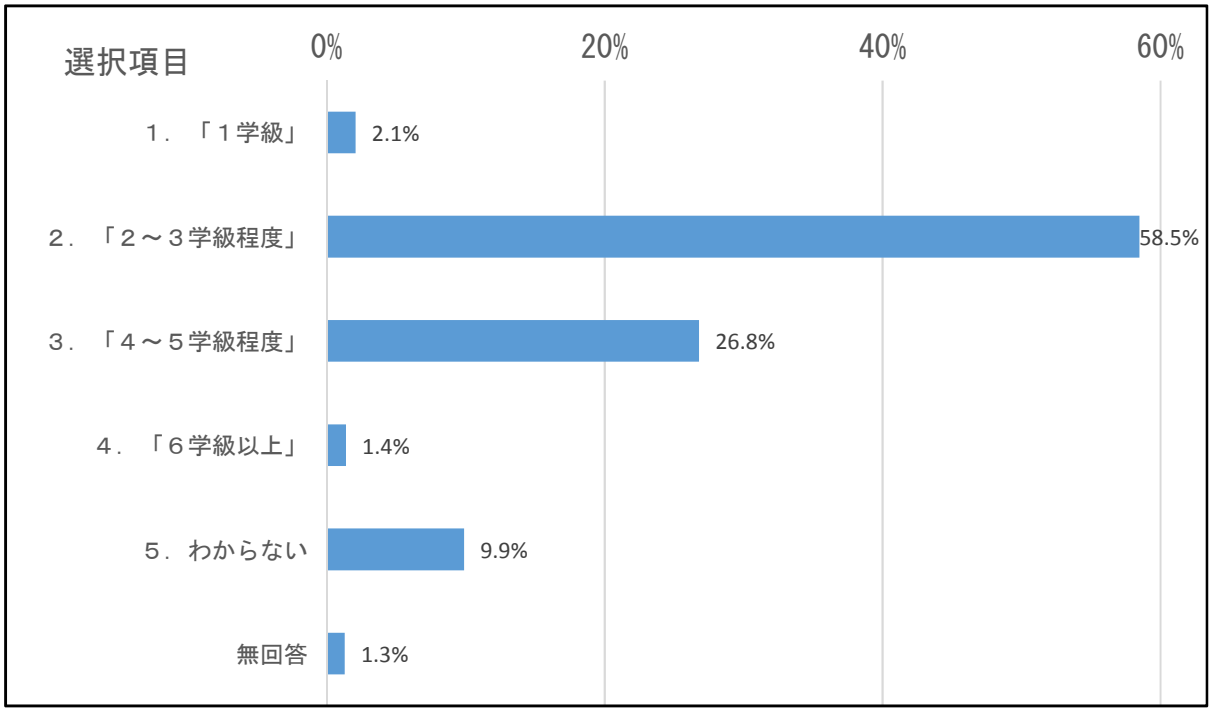
ア　中学校における１学年での望ましい学級数

（選択肢）　１．１学級　　２．２～３学級程度　　３．４～５学級程度
　　４．６学級以上　　５．わからない

［調査結果の概要］

〇中学校における１学年での望ましい学級数は「２～３学級程度」が　58.5%　となっている。（図表２２）
〇回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「２～３学級程度」を望む割合はそれぞれ　59.8%　と　74.6%　と更に高まっている。（図表２３）

図表２２　　中学校における１学年での望ましい学級数



図表２３　（上段：人）

		問１５）ア　中学校における１学年での望ましい学級数					
問４）回答者の子ども	合計	1.「1学級」	2.「2～3学級程度」	3.「4～5学級程度」	4.「6学級以上」	5.わからない	無回答
全体Ｎ値	1,191 100.0%	25 2.1%	697 58.5%	319 26.8%	17 1.4%	118 9.9%	15 1.3%
未就学児	93 100.0%	1 1.1%	48 51.6%	36 38.7%	0 0.0%	8 8.6%	0 0.0%
小学生	92 100.1%	3 3.3%	55 59.8%	28 30.4%	2 2.2%	3 3.3%	1 1.1%
中学生	67 100.0%	2 3.0%	50 74.6%	12 17.9%	1 1.5%	2 3.0%	0 0.0%
高校生	63 100.1%	0 0.0%	35 55.6%	21 33.3%	3 4.8%	3 4.8%	1 1.6%
大学生等	75 100.0%	2 2.7%	44 58.7%	21 28.0%	1 1.3%	6 8.0%	1 1.3%
社会人	513 100.0%	11 2.1%	297 57.9%	138 26.9%	4 0.8%	56 10.9%	7 1.4%
無回答	5 100.0%	1 20.0%	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%
子どもなし	283 100.0%	5 1.8%	165 58.3%	63 22.3%	6 2.1%	40 14.1%	4 1.4%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別　（上段：人）

		問１５）ア　中学校における１学年での望ましい学級数					
小学校区	合計	1.「1学級」	2.「2～3学級程度」	3.「4～5学級程度」	4.「6学級以上」	5.わからない	無回答
全体	1,022 100.1%	21 2.1%	592 57.9%	271 26.5%	13 1.3%	111 10.9%	14 1.4%
石動小	348 99.9%	4 1.1%	163 46.8%	129 37.1%	5 1.4%	44 12.6%	3 0.9%
東部小	110 100.0%	2 1.8%	52 47.3%	39 35.5%	2 1.8%	12 10.9%	3 2.7%
大谷小	241 99.9%	3 1.2%	159 66.0%	50 20.7%	0 0.0%	27 11.2%	2 0.8%
蟹谷小	153 100.1%	7 4.6%	101 66.0%	22 14.4%	4 2.6%	18 11.8%	1 0.7%
津沢小	170 99.9%	5 2.9%	117 68.8%	31 18.2%	2 1.2%	10 5.9%	5 2.9%

*網掛け表示は各項目の最大値

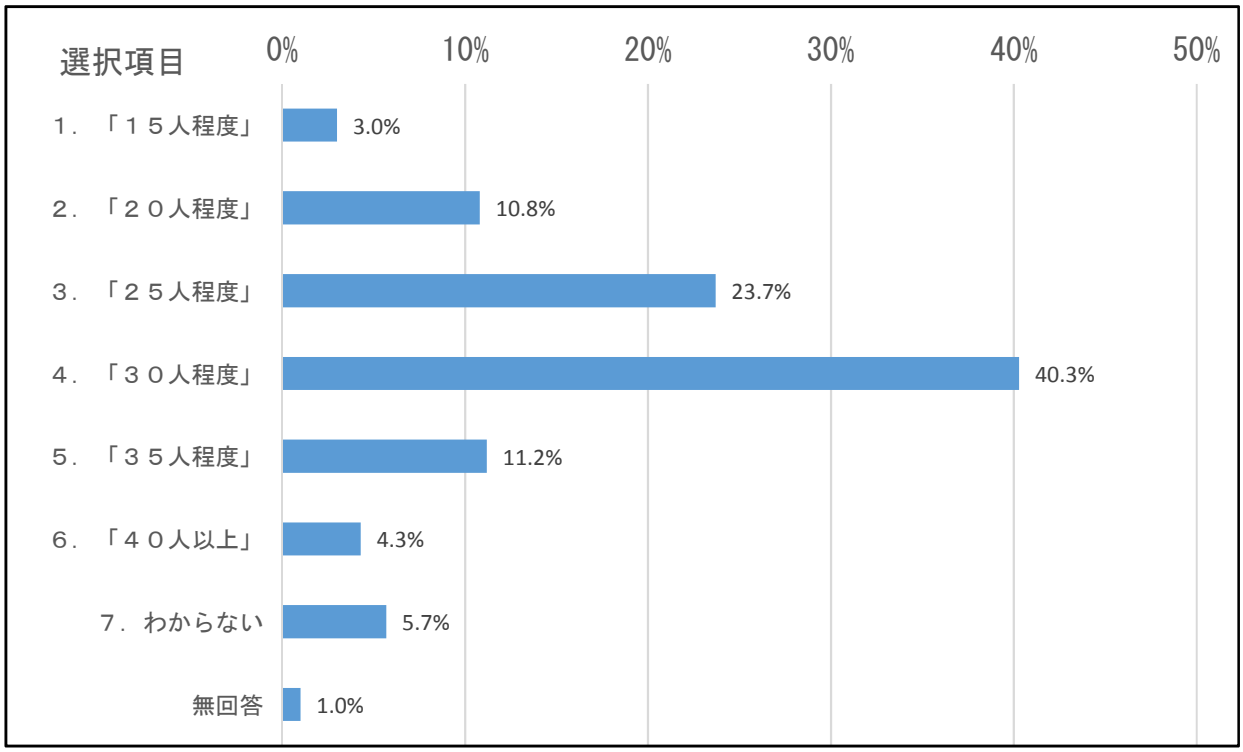
イ　中学校における１学級あたりの生徒数

（選択肢）　１．１５人程度　　２．２０人程度　　３．２５人程度
　　４．３０人程度　　５．３５人程度　　６．４０人以下
　　７．わからない

［調査結果の概要］

○中学校における１学級あたりの望ましい生徒数は「３０人程度」が　40.3%と高く、次いで「２５人程度」が　23.7%　となっている。（図表２４）
○回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「３０人程度」を望む割合がそれぞれ　45.7%　と　43.3%　と更に高く、次いで「２５人程度」となっている。（図表２５）

図表２４　　中学校における１学級あたりの生徒数



図表２５　（上段：人）

		問１５）イ　中学校における１学級あたりの生徒数							
問４）回答者の子ども	合計	1.「15人程度」	2.「20人程度」	3.「25人程度」	4.「30人程度」	5.「35人程度」	6.「40人以上」	7.わからない	無回答
全体N値	1,191 100.0%	36 3.0%	129 10.8%	282 23.7%	480 40.3%	133 11.2%	51 4.3%	68 5.7%	12 1.0%
未就学児	93 100.0%	1 1.1%	9 9.7%	31 33.3%	36 38.7%	8 8.6%	3 3.2%	5 5.4%	0 0.0%
小学生	92 100.0%	4 4.3%	12 13.0%	22 23.9%	42 45.7%	8 8.7%	2 2.2%	1 1.1%	1 1.1%
中学生	67 100.0%	4 6.0%	10 14.9%	15 22.4%	29 43.3%	7 10.4%	2 3.0%	0 0.0%	0 0.0%
高校生	63 99.9%	4 6.3%	5 7.9%	13 20.6%	29 46.0%	7 11.1%	2 3.2%	3 4.8%	0 0.0%
大学生等	75 100.1%	3 4.0%	8 10.7%	13 17.3%	35 46.7%	11 14.7%	3 4.0%	2 2.7%	0 0.0%
社会人	513 100.0%	10 1.9%	46 9.0%	119 23.2%	215 41.9%	56 10.9%	25 4.9%	36 7.0%	6 1.2%
無回答	5 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%
子どもなし	283 99.9%	10 3.5%	39 13.8%	68 24.0%	92 32.5%	36 12.7%	13 4.6%	21 7.4%	4 1.4%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別　（上段：人）

		問１５）イ　中学校における１学級あたりの生徒数							
小学校区	合計	1.「15人程度」	2.「20人程度」	3.「25人程度」	4.「30人程度」	5.「35人程度」	6.「40人以上」	7.わからない	無回答
全体	1,022 100.1%	26 2.5%	112 11.0%	247 24.2%	403 39.4%	114 11.2%	45 4.4%	63 6.2%	12 1.2%
石動小	348 100.0%	4 1.1%	25 7.2%	72 20.7%	154 44.3%	52 14.9%	14 4.0%	24 6.9%	3 0.9%
東部小	110 100.0%	2 1.8%	13 11.8%	28 25.5%	38 34.5%	9 8.2%	6 5.5%	11 10.0%	3 2.7%
大谷小	241 100.0%	6 2.5%	29 12.0%	57 23.7%	105 43.6%	18 7.5%	10 4.1%	14 5.8%	2 0.8%
蟹谷小	153 100.0%	4 2.6%	26 17.0%	37 24.2%	53 34.6%	15 9.8%	9 5.9%	8 5.2%	1 0.7%
津沢小	170 100.1%	10 5.9%	19 11.2%	53 31.2%	53 31.2%	20 11.8%	6 3.5%	6 3.5%	3 1.8%

*網掛け表示は各項目の最大値

（１６）部活動の今後のあり方について

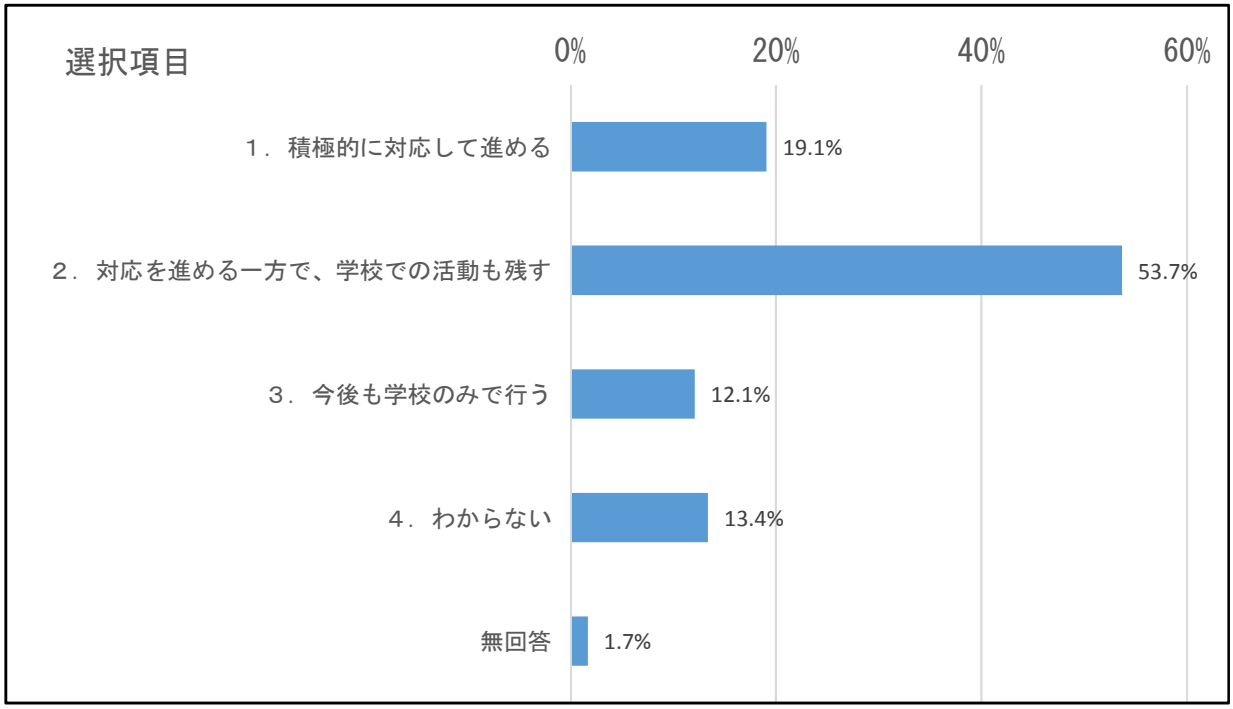
・ 国では、中央教育審議会やスポーツ庁が、部活動の教育的側面を評価する一方で、将来的には、部活動を学校から地域へ移行すべきであるとの方針を示しています。このような動きに対しては、どのようにお考えですか。（１つ回答）（「中央教育審議会・スポーツ庁等の部活動に係る方針」については、資料編Ｐ７を参照ください）

（選択肢）　１．積極的に対応して進めることが望ましい
２．対応を進める一方で、学校での活動も残すことが望ましい
３．今後も学校のみで行うべき
４．わからない

［調査結果の概要］

〇部活動の今後のあり方については、「対応を進める一方で、学校での活動も残す」の割合が　53.7%　と最も高く、次いで「積極的に対応して進める」が　19.1%　となっている。（図表２６）
〇回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、回答者全体の傾向とほぼ同様となっているが、「積極的に対応して進める」の割合がそれぞれ　27.2%　と　22.4%　となっており、回答者全体の　19.1%　より多少高くなっている。（図表２７）

図表２６　部活動の今後のあり方について



図表２７　（上段：人）

		問１６）　部活動の今後のあり方について				
問４）回答者の子ども	合計	１．積極的に対応して進める	２．対応を進める一方で、学校での活動も残す	３．今後も学校のみで行う	４．わからない	無回答
全体Ｎ値	1,191 100.0%	228 19.1%	639 53.7%	144 12.1%	160 13.4%	20 1.7%
未就学児	93 100.1%	25 26.9%	38 40.9%	10 10.8%	19 20.4%	1 1.1%
小学生	92 100.0%	25 27.2%	46 50.0%	12 13.0%	8 8.7%	1 1.1%
中学生	67 100.0%	15 22.4%	34 50.7%	6 9.0%	12 17.9%	0 0.0%
高校生	63 99.9%	16 25.4%	36 57.1%	5 7.9%	6 9.5%	0 0.0%
大学生等	75 99.9%	15 20.0%	43 57.3%	10 13.3%	7 9.3%	0 0.0%
社会人	513 99.9%	73 14.2%	299 58.3%	72 14.0%	57 11.1%	12 2.3%
無回答	5 100.0%	0 0.0%	3 60.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%
子どもなし	283 100.0%	59 20.8%	140 49.5%	29 10.2%	50 17.7%	5 1.8%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別　（上段：人）

		問１６）　部活動の今後のあり方について				
小学校区	合計	１．積極的に対応して進める	２．対応を進める一方で、学校での活動も残す	３．今後も学校のみで行う	４．わからない	無回答
全体	1,022 100.0%	191 18.7%	542 53.0%	127 12.4%	143 14.0%	19 1.9%
石動小	348 99.9%	70 20.1%	183 52.6%	44 12.6%	45 12.9%	6 1.7%
東部小	110 100.0%	17 15.5%	62 56.4%	13 11.8%	14 12.7%	4 3.6%
大谷小	241 100.0%	40 16.6%	132 54.8%	29 12.0%	36 14.9%	4 1.7%
蟹谷小	153 99.9%	23 15.0%	81 52.9%	23 15.0%	24 15.7%	2 1.3%
津沢小	170 100.0%	41 24.1%	84 49.4%	18 10.6%	24 14.1%	3 1.8%

*網掛け表示は各項目の最大値

（１７）通学時間・通学距離について

・ 現在、本市では、小学校では通年でスクールバスを運行し、中学校では冬季にスクールバスを運行し、遠距離通学対策と通学の安全確保に努めています。通学時間、通学距離については、どのようにお考えですか。（各項目、１つ回答）

ア　小学生にとって限度と思われるバス乗車時間

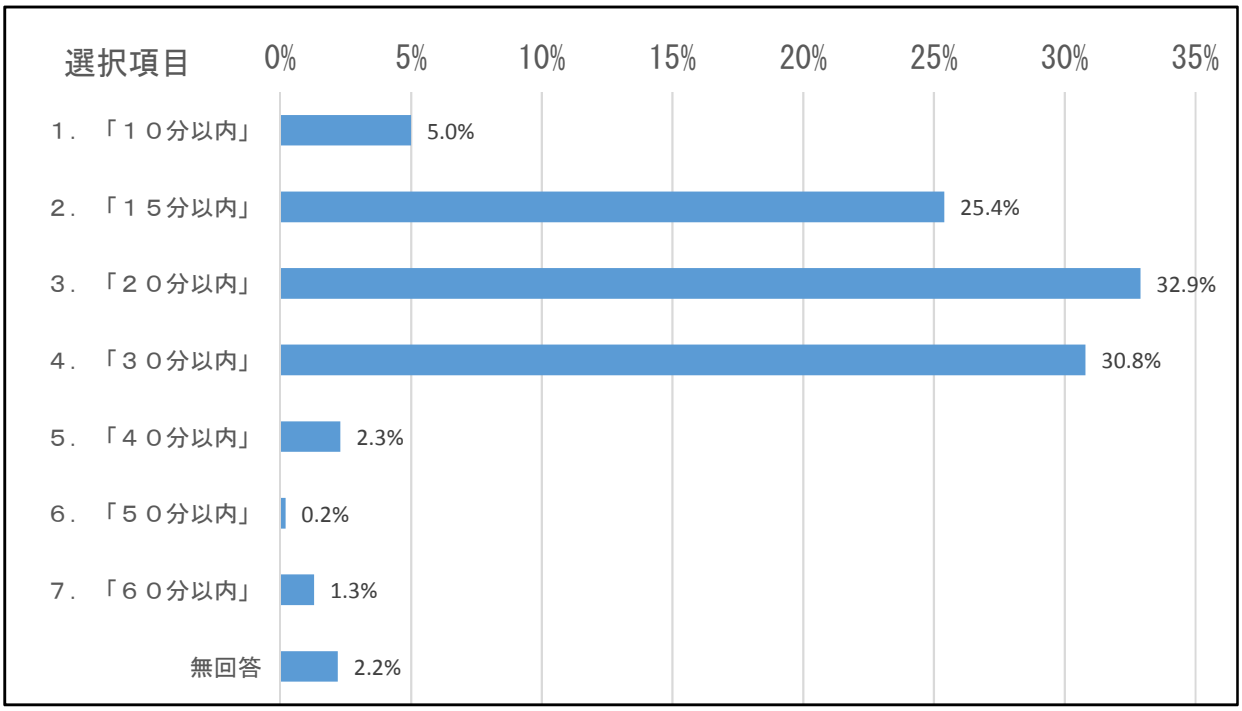
（選択肢）　１．１０分以内　　２．１５分以内　　３．２０分以内
　　４．３０分以内　　５．４０分以内　　６．５０分以内
　　７．６０分以内

［調査結果の概要］

○小学生にとって限度と思われるバス乗車時間は「２０分以内」の割合が　32.9%と最も高く、次の「３０分以内」も　30.8%　となっている。（図表２８）

○回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「１５分以内」の割合が高く、次いで「３０分以内」「２０分以内」となっている。（図表２９）

図表２８　　小学生にとって限度と思われるバス乗車時間



図表２９　　（上段：人）

		問１７）ア　小学生にとって限度と思われるバス乗車時間							
問４）回答者の子ども	合計	1.「10分以内」	2.「15分以内」	3.「20分以内」	4.「30分以内」	5.「40分以内」	6.「50分以内」	7.「60分以内」	無回答
全体N値	1,191 100.1%	59 5.0%	302 25.4%	392 32.9%	367 30.8%	27 2.3%	2 0.2%	16 1.3%	26 2.2%
未就学児	93 100.1%	5 5.4%	34 36.6%	31 33.3%	22 23.7%	1 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
小学生	92 100.0%	6 6.5%	35 38.0%	19 20.7%	30 32.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	1 1.1%
中学生	67 100.1%	6 9.0%	23 34.3%	15 22.4%	20 29.9%	1 1.5%	0 0.0%	2 3.0%	0 0.0%
高校生	63 100.0%	2 3.2%	21 33.3%	16 25.4%	21 33.3%	2 3.2%	0 0.0%	1 1.6%	0 0.0%
大学生等	75 99.9%	3 4.0%	14 18.7%	22 29.3%	31 41.3%	1 1.3%	0 0.0%	3 4.0%	1 1.3%
社会人	513 100.0%	23 4.5%	117 22.8%	192 37.4%	145 28.3%	12 2.3%	1 0.2%	6 1.2%	17 3.3%
無回答	5 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%
子どもなし	283 100.0%	14 4.9%	58 20.5%	95 33.6%	97 34.3%	10 3.5%	0 0.0%	3 1.1%	6 2.1%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別　　（上段：人）

		問１７）ア　小学生にとって限度と思われるバス乗車時間							
小学校区	合計	1.「10分以内」	2.「15分以内」	3.「20分以内」	4.「30分以内」	5.「40分以内」	6.「50分以内」	7.「60分以内」	無回答
全体	1,022 99.9%	50 4.9%	244 23.9%	352 34.4%	311 30.4%	25 2.4%	2 0.2%	13 1.3%	25 2.4%
石動小	348 99.9%	15 4.3%	77 22.1%	123 35.3%	105 30.2%	10 2.9%	0 0.0%	6 1.7%	12 3.4%
東部小	110 99.9%	5 4.5%	27 24.5%	37 33.6%	28 25.5%	6 5.5%	0 0.0%	3 2.7%	4 3.6%
大谷小	241 99.9%	13 5.4%	63 26.1%	82 34.0%	74 30.7%	2 0.8%	1 0.4%	2 0.8%	4 1.7%
蟹谷小	153 100.0%	6 3.9%	44 28.8%	51 33.3%	45 29.4%	4 2.6%	1 0.7%	0 0.0%	2 1.3%
津沢小	170 100.1%	11 6.5%	33 19.4%	59 34.7%	59 34.7%	3 1.8%	0 0.0%	2 1.2%	3 1.8%

*網掛け表示は各項目の最大値

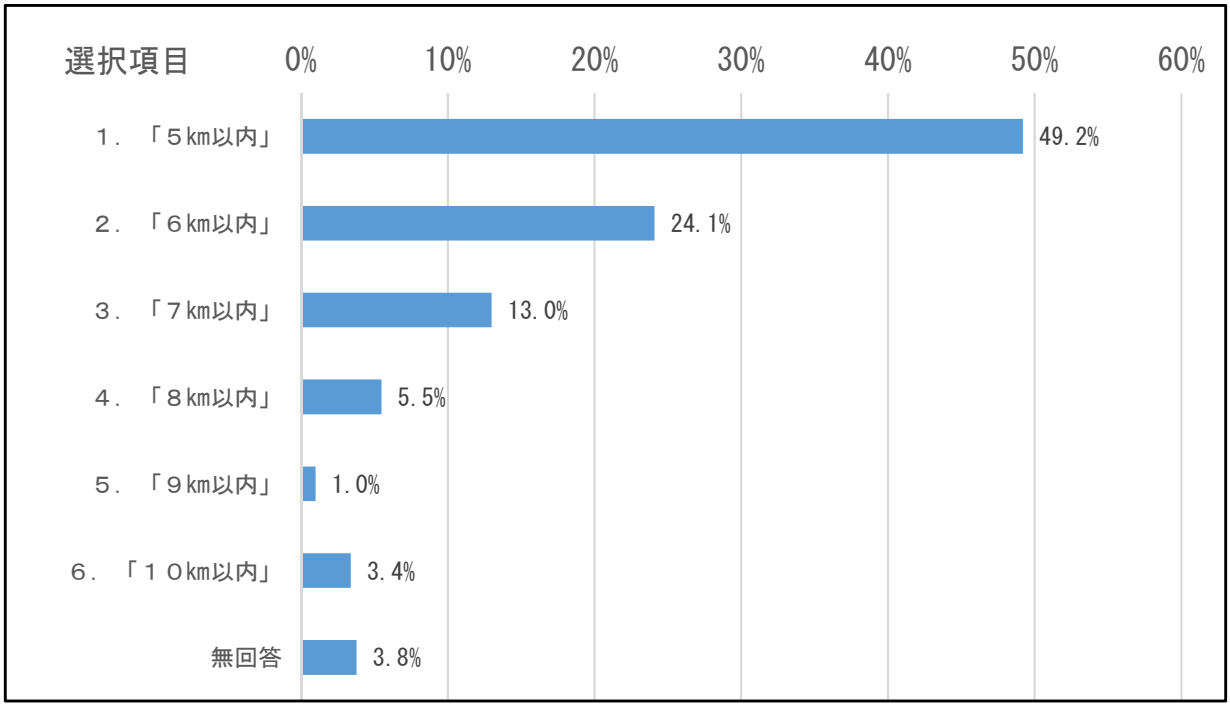
イ　中学生にとって限度と思われる自転車通学距離

（選択肢）　１．５ｋｍ以内　２．６ｋｍ以内　３．７ｋｍ以内
４．８ｋｍ以内　５．９ｋｍ以内　６．１０ｋｍ以内

［調査結果の概要］

○中学生にとって限度と思われる自転車通学距離は「５ｋｍ以内」が　49.2%　と最も高い。次いで「６ｋｍ以内」「７ｋｍ以内」の順となっている。（図表３０）
○回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「５ｋｍ以内」がそれぞれ　55.4%　と　53.7%　であり、回答者全体に比べてやや高く、半数を超えている。次いで「６ｋｍ以内」「７ｋｍ以内」の順となっている。（図表３１）

図表３０　　中学生にとって限度と思われる自転車通学距離



図表３１　（上段：人）

		問１７）イ　中学生にとって限度と思われる自転車通学距離						
問４）回答者の子ども	合計	1.「5km以内」	2.「6km以内」	3.「7km以内」	4.「8km以内」	5.「9km以内」	6.「10km以内」	無回答
全体N値	1,191 100.0%	586 49.2%	287 24.1%	155 13.0%	66 5.5%	12 1.0%	40 3.4%	45 3.8%
未就学児	93 100.2%	48 51.6%	21 22.6%	12 12.9%	6 6.5%	2 2.2%	2 2.2%	2 2.2%
小学生	92 99.9%	51 55.4%	16 17.4%	12 13.0%	3 3.3%	4 4.3%	4 4.3%	2 2.2%
中学生	67 100.1%	36 53.7%	17 25.4%	5 7.5%	3 4.5%	1 1.5%	3 4.5%	2 3.0%
高校生	63 100.0%	35 55.6%	15 23.8%	4 6.3%	4 6.3%	0 0.0%	3 4.8%	2 3.2%
大学生等	75 100.1%	41 54.7%	11 14.7%	12 16.0%	4 5.3%	0 0.0%	2 2.7%	5 6.7%
社会人	513 100.0%	249 48.5%	122 23.8%	73 14.2%	29 5.7%	2 0.4%	13 2.5%	25 4.9%
無回答	5 100.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%
子どもなし	283 100.0%	124 43.8%	84 29.7%	36 12.7%	17 6.0%	3 1.1%	13 4.6%	6 2.1%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別　（上段：人）

		問１７）イ　中学生にとって限度と思われる自転車通学距離						
小学校区	合計	1.「5km以内」	2.「6km以内」	3.「7km以内」	4.「8km以内」	5.「9km以内」	6.「10km以内」	無回答
全体	1,022 100.0%	496 48.5%	252 24.7%	133 13.0%	57 5.6%	10 1.0%	35 3.4%	39 3.8%
石動小	348 99.8%	141 40.5%	99 28.4%	57 16.4%	20 5.7%	4 1.1%	12 3.4%	15 4.3%
東部小	110 100.1%	55 50.0%	14 12.7%	17 15.5%	9 8.2%	0 0.0%	8 7.3%	7 6.4%
大谷小	241 100.0%	125 51.9%	61 25.3%	25 10.4%	16 6.6%	1 0.4%	6 2.5%	7 2.9%
蟹谷小	153 100.1%	87 56.9%	33 21.6%	15 9.8%	8 5.2%	2 1.3%	5 3.3%	3 2.0%
津沢小	170 100.2%	88 51.8%	45 26.5%	19 11.2%	4 2.4%	3 1.8%	4 2.4%	7 4.1%

*網掛け表示は各項目の最大値

３　自由意見の概要

（１）小中学校の教育のあり方及び適正規模・適正配置について

※小矢部市のこれからの教育のあり方、小中学校の適正規模・適正配置をはじめ、広く学校教育に関するご意見を自由にご記入ください。

・　自由意見は、後述、資料編のとおり

※　小中一貫教育について

※近年、新しい学校教育の姿として「小中一貫教育」を推進する市町村が増えつつあります。本市における「小中一貫教育」についてのご意見をお聞かせください。
（「小中一貫教育の各形態・内容・状況等」については資料編Ｐ７を参照ください）

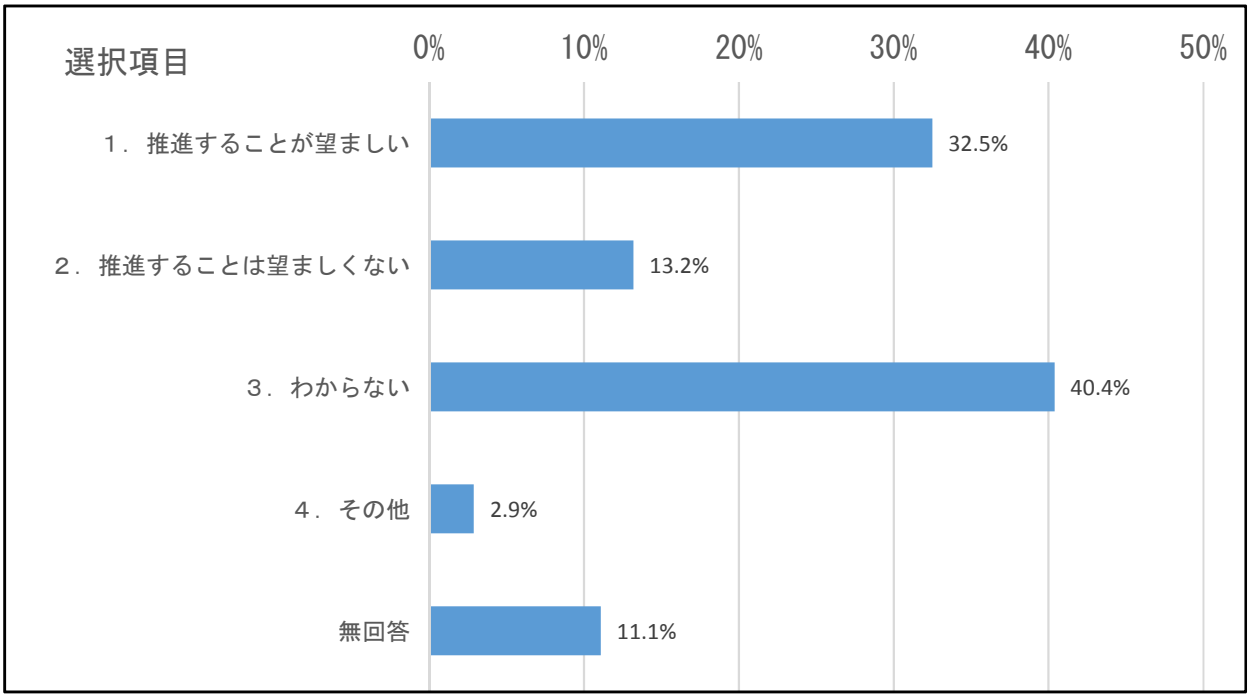
（選択肢）　１．推進することが望ましい　　２．推進することは望ましくない
３．わからない　　４．その他

・　その他及び自由意見は、後述、資料編のとおり

［調査結果の概要］

○小中一貫教育の推進については、「わからない」の割合が 40.4% と最も高く、次いで「望ましい」が 32.5% となっている。「望ましくない」は 13.2% となっている。（図表３２）
○回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「わからない」がそれぞれ 46.7% と 46.3% となっている。
小学生保護者では「望ましい」とする意見が「望ましくない」とする意見を約７ポイント上回っており、中学生保護者では約２５ポイント上回っている。（図表３３）

図表３２　　新しい学校教育の姿として小中一貫教育の推進について



図表３３　（上段：人）

	※）　新しい学校教育の姿として小中一貫教育の推進について					
問４）回答者の子ども	合計	１．推進することが望ましい	２．推進することは望ましくない	３．わからない	４．その他	無回答
全体Ｎ値	1,191 100.1%	387 32.5%	157 13.2%	481 40.4%	34 2.9%	132 11.1%
未就学児	93 100.0%	31 33.3%	11 11.8%	42 45.2%	3 3.2%	6 6.5%
小学生	92 100.0%	21 22.8%	15 16.3%	43 46.7%	2 2.2%	11 12.0%
中学生	67 100.1%	23 34.3%	6 9.0%	31 46.3%	3 4.5%	4 6.0%
高校生	63 99.9%	21 33.3%	9 14.3%	21 33.3%	4 6.3%	8 12.7%
大学生等	75 100.0%	27 36.0%	6 8.0%	29 38.7%	4 5.3%	9 12.0%
社会人	513 100.0%	182 35.5%	65 12.7%	190 37.0%	14 2.7%	62 12.1%
無回答	5 100.0%	1 20.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	2 40.0%
子どもなし	283 100.0%	81 28.6%	45 15.9%	123 43.5%	4 1.4%	30 10.6%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別　（上段：人）

	※）　新しい学校教育の姿として小中一貫教育の推進について					
小学校区	合計	１．推進することが望ましい	２．推進することは望ましくない	３．わからない	４．その他	無回答
全体	1,022 100.0%	332 32.5%	138 13.5%	409 40.0%	28 2.7%	115 11.3%
石動小	348 100.0%	110 31.6%	48 13.8%	138 39.7%	8 2.3%	44 12.6%
東部小	110 99.9%	31 28.2%	16 14.5%	44 40.0%	5 4.5%	14 12.7%
大谷小	241 100.0%	71 29.5%	26 10.8%	107 44.4%	8 3.3%	29 12.0%
蟹谷小	153 99.9%	54 35.3%	27 17.6%	53 34.6%	4 2.6%	15 9.8%
津沢小	170 100.0%	66 38.8%	21 12.4%	67 39.4%	3 1.8%	13 7.6%

*網掛け表示は各項目の最大値

４　資　料　編

（　抜　粋　）

・自由意見は６５０件ありました。

・類似意見も多くあったことから、できるだけ異なる意見を抜粋したものです。

（１）小中学校の教育のあり方及び適正規模･適正配置に関するの自由意見

【統廃合に関する意見】

1	我が子の経験ですが、小中学校では少人数ですごし仲良くして良かったが、高校では多人数での生活に慣れない子がいて、その子が退学、引きこもりになったと聞いたので考えさせられた。原因は環境に対応できなかったようでした。
2	学校規模としては各学年複数の学級があったほうが良いと思うが、一方で学校が遠くなった場合、中学校であってもスクールバス等の通学について冬期以外も心配になるのではないかと思う。その場合、部活動時間の調整も必要だと思う。
3	中学校の部活動については、生徒数減少のため、存続困難なものが増えていくと考えられます。合同活動や市内の中学校の自由選択のシステムも今後考えていく必要があるのではないかと考えます。統合すべき学校もあると思います。
4	学校統合は児童数減少により仕方がない。小中一貫教育を前向きに進めるべきと思う。
5	市として、一元化校区とし、様々な多様性を持った児童生徒の交流をはかる。個の特質を極めるのではなく、５～６学級の中で自身の方向性を見出す教育も必要である。
6	学校を集中させることでより教育資金を集中して、高度な教育（英語やＰＣ等）を受けさせて、それを魅力としてＰＲし、他の市から子育て世代を移住させることにつながれば良いと思う。
7	地域性を考え、大規模、小規模学校になっても統合が必要と思います。
8	地域のために学校があるわけではないと考える。子どものために一番望ましい方法を考えるべきである。子ども同士の関わり合い学び合いが一番大切である。
9	部活動の多様化や運動会等においても児童数の減少は問題がある。学校の運営効率の観点でも小矢部市の小中学校の合併を進めることに賛成です。少人数クラスや教員の増員も取り入れてください。
10	１学年あたり３学級程度で100人前後は必要だと考える。少数だとメンバーが固定化し、刺激が少なく閉鎖的である。多様性を認めたり、協調性が育ったりしにくい環境は社会に出るときに不都合だと感じる。
11	人数が少なくなる中で統廃合は必要と思われる。通学時間や通学距離が多くなることは仕方がない。
12	進学に伴い新しい人間関係を広げられる仕組みがあると良い。小学校ではスクールバスもあるので校区が広くなっても対応できると思われる。中学校では熊や変質者の心配があるので通学時間帯に路線バスを利用しやすい仕組みがあると良い。
13	コミュニケーション能力が重要視されている現代において、ある程度の規模（１学年100人前後）の学校にした方が生徒がいろいろな人とふれ合うことができるので良いと考える。多様な価値観を養うことが大切と考える。
14	市内にある小中学校の統合をしてほしいです。限りある財政を分散するより集中することでより高度な環境での教育ができると思います。より多くの人間の中でもまれ、子どももより成長すると思います。
15	統廃合をする場合、地区が割れることのないように。
16	小規模小学校で子ども達３人は学習しました。クラス替えもない小学校生活はいじめや縦割り活動がなく、保育所からの幼なじみ感がある学級も悪くなかった。細やかな学習指導にも感謝しています。小中一貫に対してはメリットも多く、是非推進したい。小学校５・６年における高学年としての責任イベントでの計画・行動達成感はとても大切だと思う。
17	生徒数が減り、一人ひとりに手厚い教育が受けられるということをメリットとして捉えたい。先生の負担がとても大きくなるため、保護者の地域の協力も今以上に必要になると思う。
18	少人数も丁寧で良い。競い合うことを苦手とする。
19	少人数であっても工夫次第で社会性を養うことは可能。
20	現状の規模配置を可能な限り維持したいが、実情からみて近い将来「小中一貫教育」を導入、推進する必要があると思われる。
21	小学校への通学が問題。近くで歩いて通学できるのがベスト。
22	地域のよりどころである学校を残すためにも、現小中学校を存続すべきである。
23	生徒数が減少していく中で、小学校の合併や中学校の合併は通学の問題から避けたい（体力強化の面から自力で通学できる方が望ましいと考えるため）。

24	１.安易な事柄で統廃合はしない。特に経済的な理由ではだめ。 ２.十分な時間を費やし、地域の重要な文教施設である学校の在り方を検討する。
25	小学校は小規模できめ細やかな指導、中学校は中規模で社会性を身に付けられる環境がベスト。
26	無理して統合することはないと思うが、子ども達のことを考えるとクラス替えができたほうが良いかもしれない。
27	できるならば、現状の校区のまま小中学校があれば良いと思います。といっても、１クラスずつになったらやはり統合もしなければいけないとも思います。
28	地区区分変更確定後に考える。
29	今になって学校の在り方を問うのは対応が遅い。子ども達の減少化は今に始まったものではなく、５～10年先を見て考えるべきで、そのことは市だけではなくＰＴＡも必要だと思う。
30	現時の最大の問題であることから、統廃合審議会で充分に慎重審議されようお願いしたい。

【教育全般に関する意見】

1	知識や教育も必要ですが、家庭はもちろん、学校でも、一番大切な社会に出た時、必要とされるのは思いやる心の教育です。
2	もっと多角的に児童・生徒の気持ちを考えた指導を徹底していただきたい。
3	専門的な知識の向上。スポーツばかりでなく芸術的な事。
4	社会が多様化、国際化が進んでいるので、今の社会に合わせた教育。
5	子どもの個性を尊び仲良く勉強が楽しくなるように助言してほしい。そして自己責任をはっきり行動するようにしてほしい。
6	個人の適正を伸ばす教育を希望します。
7	人間関係を重要にした教育を行う。
8	生徒数が少ないと責任を持った行動ができるようにはなるが、団体行動ができない。多いと「さぼる」「まぎれる」といった子も出てくる。
9	市内でも行く学校を生徒自身が選択できるシステムがあれば良いと思います。
10	小規模校同士で年に数回、同学年の合同授業により少しはデメリットの解消をはかることが出来るのではと思う。
11	集団行動の充実をはかってほしい。
12	一人ひとりの教育が行き届けば最高ですが、差があります。分からない生徒を取り残さないよう努力してほしいです。
13	子どもファーストになり過ぎない教育を望みます。怒ってくれる教師もいてほしい。丁寧な指導を甘やかす指導は違うと思う。もちろん家庭でも。
14	小中学校の児童数が毎年減少とのことで、少人数では先生方の個々の教育には良いと思いますが、学校は人員の多いほどよい結果が出ると思いますので、最悪の場合は合同でどうか。
15	お互い競争心を育み個人個人の得意分野を生かした学校生活をできるよう願う。
16	人口減少の中で学校の統廃合は市の運営上必要となってくると思うが、子ども達の地域性は薄れ中学校での新たな人間関係づくりの試練がなくなると、その後の人生に何らかのマイナスが出てくると考える。壁にぶつからせることも必要。ずっと人間が同じ数だとマンネリ化する。
17	家庭でのしつけや教育を見つめなおして、地域や学校との関わりを大切にしていくことが大切だと考える。
18	６～９年間人間関係に変化の少ない環境は良くない。もっと自由な考えを持ち企画し、実行した方が良いと思います（大人の頭が固いので変化しづらい）。
19	教育の基礎、生活の基礎は家庭にあると思う。学校（教師）は負担が大きく、そこへ依存する家庭も多いがやはり基本は家庭ではないか。学校や地域がサポートする環境が子ども達を健やかに育て上げると思う。
20	学校は数は多い方が良いと思う。少人数でクラスが多い。大きなイベントをやりがいを持ってやれそう。放課後に学校の一部を開放し、外部教育が入り習い事のできると助かる。仕事のため何か習い事と言っても送迎できない。以前、私立幼稚園の教室で放課後外部の業者が入り、月謝で習い事ができてとても良かった。

【学級数・学級児童生徒数に関する意見】

1	近所に同級生がおらずクラスも１つしかない。とても狭い交流関係の中で子ども達が生活している状況。通学距離の問題はあるが、いろいろな性格の人とふれあう事ができ、ぶつかりながらも関係を修復できる柔軟な頭を持っているのは小学生だと思う。健全な人間関係を学ぶためにも学級の数は多くしてほしい。
2	１学年で２クラス以上、毎年クラス替えがある方が雰囲気が変わって良いと思う。同じ状況がずっと続くことにデメリットがある場合もあると思う。
3	児童生徒数の推移から学校によっての人数の偏りがありすぎるのでは。小中一貫も良いがそれでも限界があるのでは。人間関係が固定されないようにせめて２クラス以上ありクラス替えなどで多くの友達・先生と学んでほしい。
4	理解していない子が取り残されている。理解度によりグループ分けをし、取り残される子どもがいない教育を求めたい。一つの教室に５グループぐらいで、きちんと１グループに教員がつくなど、海外では多い。
5	少人数でも助け合える心を育てる教育があれば良いと思います。
6	小学校ではスタディメイト、支援講師も良いが、１学級あたりの児童数を20～25人くらいにするのが望ましい。教員の多忙も解消できるし、子どもも落ち着くと思う。教員の目が行き届きやすく、きめ細やかな対応が期待できる。
7	過剰に競争させることなく、自然の中で欧米のように１学級あたり少ない人数で伸び伸びと学習することによって、良い人間関係、信頼関係を作り、基礎学力を身につけ、学ぶ楽しさ、学習意欲が高まるのではないかと思う。また、自己肯定感も高まり個性を伸ばすことにつながるのではないか。
8	子どもの人数が減り、学校の統合、再編は理解できるが、１クラスあたりの人数が30人以上となると一人ひとりに充分な教育とは難しいのではないか。

【部活動、通学、いじめに関する意見】

1	児童生徒が少なくなる中、集団としての部活動が出来にくくなると考えられる。種目によっては、市全体で強化をはかることも必要ではないか。
2	中学校の人数の割に部活の種類が多い。
3	中学の部活動を他校と合同で行えるようにしてほしい。所属校以外への部活動の参加を認めてほしい。市内を一つの部と考え、部活動の種類を増やしてほしい。
4	少数の中学校は部活動などの選択肢が少なくて残念である。校区を自由化し特色のある学校。
5	通学にあたり、安全が確保される様、自転車専用の車道の設置をお願いします。
6	自転車通学が許可される通学距離の引き下げを行ってはどうか。私が石動中にいた頃は２㎞の子が自転車通学できて、１．８㎞の子が自転車に乗って通学できずに可哀想だった。
7	大型スクールバスでの通学より小型スクールバスで運行を行ってほしい（バス停まで遠い）。
8	学校までの距離が２．７㎞です。３㎞ないため歩きとなり、登下校に１時間ほどかかる。途中何かあるのではと心配です。せめて２㎞以下にしてほしい。
9	先日からの事件のこともあるので、登下校に対する安全確保、歩道、外灯の見直し整備をしっかりと行ってほしい。
10	長時間の通学は子どもには負担です。
11	通学は全員市バスを使用しスクールバスを廃止し、市バスも本数を増やし、子ども達は全員バスを使って通学できるようにしてほしい。冬期中学生でバスに乗れる子と親が送らなければならない子が出るのは不平等に感じる。市バスが増えれば老人も交通手段に困らない。
12	児童数の減少により集団下校も少ない人数で下校をしています。ニュース等で事件・事故痛ましい内容が報道されていますが、何か対策は考えておられるのでしょうか？他県では迅速に対応されていましたが、小矢部市教育委員会としては何か対応をされましたか？何かあってからでは遅いと思います。
13	いじめなどがない教育にしてもらいたい。
14	いじめを未然に防ぐ。
15	不登校・いじめ未然防止、家庭・教職員との話し合い。

【子どもの成長に関する意見】

1	教育も大事ですが、放課後支援もお願いします。
2	核家族の時代になり、子ども達の礼儀作法などが心配です。また共働きの家庭も多く、食事面においても心配です。教育も大事ですが、世の中に出る時にとても心配になります。
3	家族愛、地域愛を持つことができる人に成長して欲しい。
4	学校教育も少子高齢化というところで適正規模、配置の必要性がでてくると思われるが、それよりも昨今の子どもに関する事件、事故に注目すると子どもの親、保護者に問題があるのではないか。親になる大人の学びの場を提供してほしい。
5	今、発達障害、知的障害の子が増えています。その子達にかかるお金をもっと増やしてほしいです。すぐ物を壊す等あり、他の子よりお金がかかるため。
6	子どもの教育、人格の形成には家庭環境がとても重要です。難しい事ではなく、子どもを思い、いつくしみ、寄りそうなど。不十分なところは学校に補ってほしい。
7	学校、家庭、地域（社会）が一体となり子ども達を育てる。
8	同じ器の中で育つ事も大切かもしれませんが、成長に応じて、より大きな器に変える事も大切だと思います。少しずつ行動範囲を広げる事、交友関係を広げる事、成長するにつれてより広い社会に順応するためには必要な事だと考えます。
9	子ども達が自立できる環境を私達大人は作ってやらなければならないと思います。少子化の時代、あまり過保護になりすぎないよう家庭はもちろん学校も地域もあまやかしすぎないように見守ってやることが大切と思います。
10	思春期という難しい時期に新しい出会いにより関係を深めたり、トラブルがあるなど様々な心の経験をすることがその後の人生において大切だと思う。

【教職員に関する意見】

1	教員をもっと増やす、または学習援助をするボランティア支援員を増やす。教員の労働が重すぎると思われる。
2	教員の負担が大きいのであれば、市独自の非常勤講師等を検討。
3	児童・生徒・保護者との信頼関係が今後も大切になってくると思います。教職員の質の向上期待します。
4	児童生徒数は減少していても、個別の配慮が必要な子どもがとても増えているので、そういう子どもに対応できる教員を確保してほしい。
5	教員の負担を減らして児童・生徒と向き合える時間を増やせるように願います。

【地域との連携に関する意見】

1	学生・生徒、個人としての地域参加は認め、学校単独で参加の必要はない。
2	地域での子ども達への見守り等も、重要であると理解していますが、それが内容によって、大変生活に負担となる事もあるのです。
3	地域と学校が交流することによって、先生への協力も進むと思います。
4	いじめや子どもが亡くなる事故や事件も増えているので教師だけでなく地域とつながりを持って見守っていくことが大切だと思う。
5	子どもの人数が減る一方で先生方の負担が大きいと思います。地域で出来ることがあれば移行、委託することもあっても良いと思います。

【その他の意見】

1	学校周辺の環境整備（公園、スポーツ施設等、通学路に歩道設備等）。
2	給食センターではなく学校毎に食事を作ってほしい。食育も力を入れてほしい。
3	子どもの安全、危機管理など十分に行ってほしい。
4	生徒数の増加、魅力ある小矢部市をどうするか、特色ある教育方針など多方面な検討が必要である。
5	ベッドタウン、道路、交通整備、人が移り住みたいと思えるような魅力的な取組を進めてほしい。

※　小中一貫教育に関する自由意見

【推進するという方の意見】

1	形の上では校舎一体型が最良であると思います。次はせめて近接型である。授業内容においても教員の出張授業・交換授業も試みられ、望ましい雰囲気を経験したことがある。
2	教員への負担が多くなっている中で学内での様々な行事や部活の現場で小学生の子ども達の面倒を中学生に見てもらうようにする。そうやって小さい子どもの世話をしていく中で中学生にも責任感が生まれ精神的な成長が期待できる。学校を中心に地域コミュニティが自然と広がって行く。子ども達には何でも任せて自分で学ばせることが大切だと思う。
3	小中一貫教育には賛成ですが、新校舎の建築には反対です。現在する校舎を活用する形で進めて頂けると良いと思います。
4	人口が減ることにより、小学校の統合が目立ちますが、広範囲の生徒が通いにくいことも考えられます。それよりも小中一貫教育で学校をボリューム化し、財源も限られていますので、より良い形態を望みます。
5	小１から中３まで児童生徒の成長に対応して一貫した教育がなされることが望ましいと思う。小６から中１へ進む段階で、教師の児童生徒理解が途切れたり、児童生徒が教科担任制等の教育の形態の変化に戸惑わないためにも。
6	小学校も中学校もなしよりは、合わせて一つを残す方が良い。
7	望ましいとは思うが、時間をかけてゆっくり取り組むべきものと思う。他市が進めているからといって慌てることはないと思う。校舎近接型、一体型が良いが、経費がかかると思う。まずは乗り入れ授業から（高学年の外国語、音楽、体育など）始めてはどうか。
8	施設の維持管理の観点からすれば良いとは思うが、今でも石動以外人間関係が小中同じで固定化している。いじめの問題が心配。ただ、私立の学校では珍しくないことなので、教育（学力）的には良いと思う。
9	出来れば、現在の４中学校をそれぞれ小中一貫校となれば一番良いのではと思います。その上で４校の交流行事や授業など工夫できることはあるかと思います。
10	小中一貫教育の校舎の配置は校舎一体型ではなく、小学生と中学生を分けた方がその時期にふさわしい環境で生活できると思う。

【推進しないという方の意見】

1	現状の状況でも教員が少ないと感じているのに、小中一貫にするともっと減るのでは？
2	一貫教育が果たして新しい教育の姿なのか、よく市民全体で検討し、より良い小矢部独自の教育・文化の発展に役所も市民もともに携え、すばらしい小矢部を作ってほしい。
3	小中一貫教育にしても地区に学校があってほしい。
4	一見６年間をかけて大学受験に準備できるので良いものと思われそうですが、勉強についていけない子と、できる子との差が格段に大きくなります。１つの学校で、学力の差の大きな子どもたちを受け入れるのは、教員への大きな負担となりますし、現実的ではない。「増えつつあるから」という理由で取り入れるのは危険で無意味だと思います。
5	小学１年から中学３年では年齢差が大きすぎる。小学生と中学生とでは教育面も養護面も全く違うと思う。
6	小中一貫は良くないと思う。心身ともに成長する時期に人間関係が固定されるため分けた方が良い(中高一貫は良い面があると思う）。
7	小学校においては、複式学級を作らないことが絶対条件。
8	教員の負担増が懸念される。新たな校舎を建設する際に多額の費用を要することとなる。
9	幼い児童の役割が減り、責任をもった活動の期待が望めず不安が残る。
10	一貫となることのメリットもあるが、子ども達にとって「変化」も成長の過程で必要。変化の著しい時代だからこそ少しでも対応できる人になってほしい。

【分からないという方の意見】

1	現時点においても一貫教育とあまり変わらないと思いますが、部活動等が問題となります。
2	統廃合の結果、市の小中学校が１～２校となれば必然的になると思いますが、どのようなメリットがあるのか理解していません。
3	どんな成果、メリットを求めているのかよく分からないが、単に効率化を目指すのであれば間違い。子ども達の成長に相応しい形が望ましい。特に変える必要性がない。
4	市の現状を鑑みると、一貫教育を視野に入れる必要はあるかもしれないが、校舎等を新設する際の経費や教職員の負担が大きくなることが心配である。
5	年齢が高い生徒にとっては責任感が出たりと良いこともあると思うが、人間関係でつまづくと大変そうである。
6	校舎の新築、学校統廃合を前提としたもので議論すべきではない。
7	私立のように同じ学力であれば一貫校でも良いと思うが、学力差が広がる恐れもあると思う。
8	既存校舎にて校舎一体型はできないか？
9	人数が少ない今、小中一貫教育は仕方ないとも考えます。でもずっと９年間同じ学校で過ごすのは何か不安な事も心配です。
10	どのようなメリット・デメリットがあるのか分からない。不登校等の問題やいじめなどが起きたときに、対応が複雑になるのではないかと考える。

【その他の意見】

1	英語教育をはじめとして、効果的な点が多いのではないか。
2	小中一貫教育を進めるには校舎近接型で小、中がそれぞれ独立し、必要に応じて自由に小中学校が一貫した指導で話し合えるようにすれば良い。
3	時代の流れで今までとは違う形になるのは、受け入れるべきと感じますが、子ども達のためになるのなら、地域もどんどん関わっていくべきだと思います。良い面、悪い面はあると思いますが、その都度の対応に力を入れてもらいたい。
4	小矢部市の場合は、現状でも小中一貫型の形態だと思われます。このまま小中一貫教育に進めればと思います。ただ、小学校で学校が嫌になってしまった子どもにとっては、立て直す機会が少なくなり困ります。
5	それぞれにメリット、デメリットがある以上、費用対効果も含めて検討する必要がある。何事も推進前提で話し合うのは良くないと思う。
6	中学校へ進学するということは、様々な新しい環境の変化を体験することになります。小学校からの友達のいることから、相談したりしながら、対応するための経験を積むことができます。高校へ進学する時のことを考えたとき、同じ学校の生徒も少ないですし、地方独特の考え方やもののとらえ方の違う人とも交流していくことになります。小中一貫校の場合、中学校での環境変化の対応の経験をすることなく、高校進学ということになり、一気に大きな変化を受け入れる点で、負担になるのではないかと考えます。
7	中学校１年生の時期に「いじめ」の件数が大きく跳ね上がるのも事実。それを防ぐといった点からは、小中一貫校にした方が良いのではないかとも考えます。
8	小中一貫については、児童数の減少により空き教室が増えている状況のため校舎の維持費の削減、兄弟のいる家庭は１ヶ所でまとまっているため保護者の負担が軽くなる、異年齢の人とのふれあい等メリットは大いにあると思います。
9	中高一貫校であれば生徒学生の進路の時間的余裕発生するメリットがあると思うが、公的義務教育機関間の小中一貫校に教育的メリットは無いように思われる。財政的には導入しても良いと思われる。
10	肯定も否定もない。判断基準は子ども達を教え育むことを中心に捉える。それを基に現状と想定している小中一貫教育の長所短所を洗い出し照らし合わせ判断する。結果を公式の場で住民に胸を張って、判断基準となった資料を提示し、結果を提示できること。

別　添

小矢部市のこれからの学校教育のあり方及び小中学校の適正規模・適正配置等に関する市民アンケート調査

資　料　編

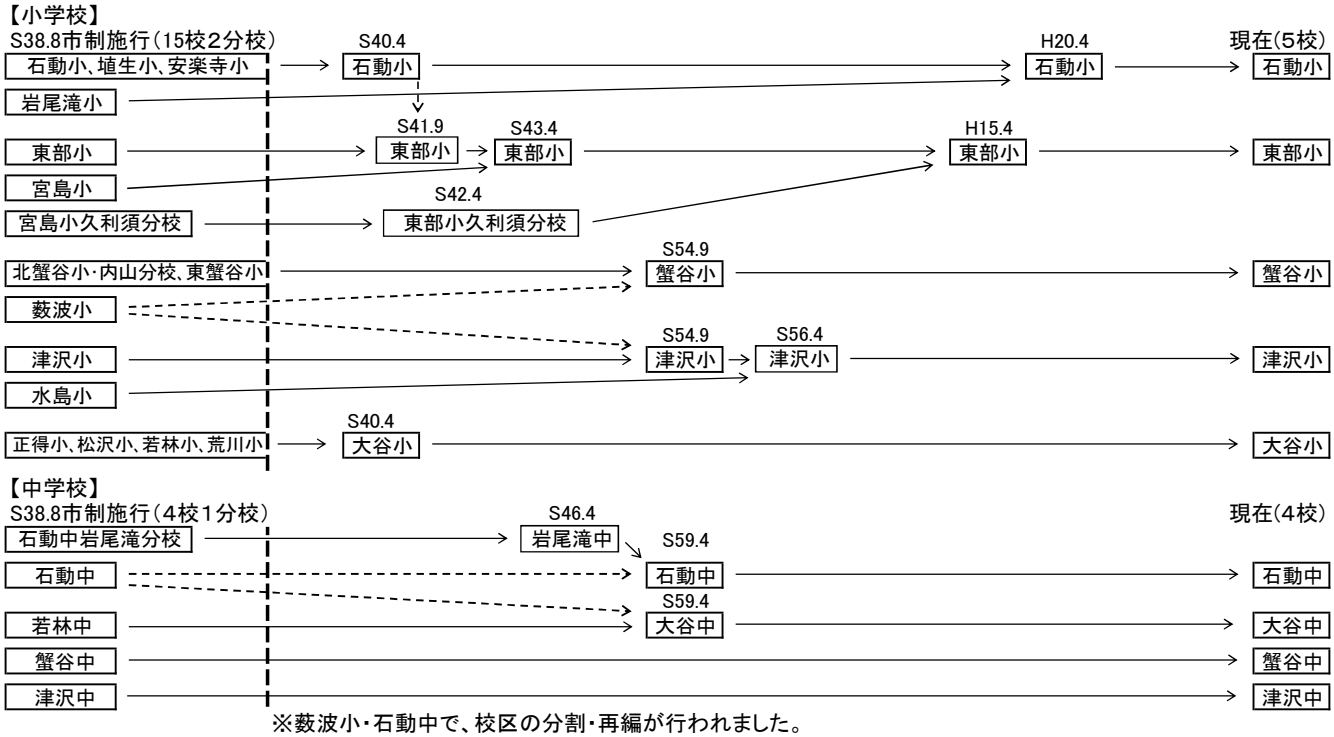
○　目次

１　小矢部市の小中学校統廃合の経緯
２　学校別の児童生徒数・学級数の推移と今後の予測
３　県内の学校規模別児童生徒数・学級数・教員数の比較
４　学校規模によるメリットとデメリット（文部科学省手引きより）
５　学校施設の現況（校舎・体育館・プール等）、スクールバスの現況
６　学校施設の維持管理費と財源
７　学校施設の利用状況（学校開放、避難所指定、放課後児童クラブ等）
８　中央教育審議会・スポーツ庁等の部活動に係る方針
※　小中一貫教育の各形態・内容・状況等

小矢部市小中学校統廃合審議会・小矢部市教育委員会

【１　小矢部市の小中学校統廃合の経緯】

・過去の小中学校統廃合の経緯を記載しています。



※薮波小・石動中で、校区の分割・再編が行われました。

【２　学校別の児童生徒数・学級数の推移と今後の予測】

・小中学校別、学校別に児童生徒数及び学級数の推移と今後の予測を記載しています。

（１）小学校（学級数は支援学級を除く）

年	石動小学校		岩尾滝小学校		大谷小学校		東部小学校		蟹谷小学校		津沢小学校		小学校計			
															対前年度比	
4月1日現在	児童数	*学級数*	児童数	*学級数*	児童数	*学級数*	児童数	*学級数*	児童数	*学級数*	児童数	*学級数*	児童数	*学級数*	児童数増減	学級数増減
平成10年	706	*20*	27	*3*	483	*15*	214	*7*	326	*12*	359	*12*	2,115	*69*	―	―
平成15年	569	*18*	13	*3*	429	*13*	181	*6*	245	*9*	283	*11*	1,720	*60*	△395	△9
平成20年	513	*18*			433	*14*	173	*6*	211	*7*	254	*11*	1,584	*56*	△136	△4
平成25年	472	*16*			438	*13*	140	*6*	216	*7*	246	*11*	1,512	*53*	△72	△3
平成30年	373	*12*			352	*12*	100	*6*	187	*6*	250	*12*	1,262	*48*	△250	△5
平成31年	353	*12*			346	*12*	100	*6*	182	*6*	253	*11*	1,234	*47*	△28	△1
令和2年	359	*12*			344	*12*	94	*6*	186	*6*	257	*11*	1,240	*47*	6	0
令和3年	348	*12*			342	*12*	86	*6*	183	*6*	251	*10*	1,210	*46*	△30	△1
令和4年	349	*12*			351	*12*	94	*6*	185	*6*	239	*9*	1,218	*45*	8	△1
令和5年	348	*12*			350	*12*	83	*6*	178	*6*	226	*9*	1,185	*45*	△33	0
令和6年	344	*12*			335	*12*	79	*6*	169	*6*	213	*8*	1,140	*44*	△45	△1
令和7年	355	*12*			329	*12*	66	*6*	163	*6*	203	*8*	1,116	*44*	△24	0

・小学校の児童数・学級数について、平成10年の2,115人・69学級から令和7年には1,116人（47%減）・44学級（36%減）と大きく減少します。

（２）中学校（学級数は支援学級を除く）

年	石動中学校		大谷中学校		津沢中学校		蟹谷中学校		中学校計			
											対前年度比	
4月1日現在	生徒数	*学級数*	生徒数	*学級数*	生徒数	*学級数*	生徒数	*学級数*	生徒数	*学級数*	生徒数増減	学級数増減
平成10年	544	*15*	289	*8*	248	*8*	195	*6*	1,276	*37*	―	―
平成15年	468	*13*	229	*7*	175	*6*	163	*6*	1,035	*32*	△241	△5
平成20年	375	*11*	214	*7*	126	*5*	113	*4*	828	*27*	△207	△5
平成25年	354	*10*	211	*6*	136	*6*	110	*4*	811	*26*	△17	△1
平成30年	297	*9*	190	*6*	124	*6*	114	*4*	725	*25*	△86	△1
平成31年	296	*9*	184	*6*	122	*5*	116	*5*	718	*25*	△7	0
令和2年	266	*8*	170	*6*	122	*5*	107	*4*	665	*23*	△53	△2
令和3年	251	*8*	177	*6*	123	*6*	95	*3*	646	*23*	△19	0
令和4年	229	*8*	175	*6*	126	*5*	86	*3*	616	*22*	△30	△1
令和5年	231	*7*	178	*6*	129	*5*	91	*3*	629	*21*	13	△1
令和6年	222	*7*	172	*6*	129	*6*	92	*3*	615	*22*	△14	1
令和7年	224	*7*	171	*6*	127	*5*	96	*3*	618	*21*	3	△1
令和8年	222	*6*	166	*6*	128	*5*	95	*3*	611	*20*	△7	△1
令和9年	211	*6*	170	*6*	122	*5*	91	*3*	594	*20*	△17	0
令和10年	219	*7*	180	*6*	112	*4*	89	*3*	600	*20*	6	0
令和11年	209	*7*	184	*6*	98	*4*	83	*3*	574	*20*	△26	0
令和12年	211	*7*	165	*6*	91	*3*	78	*3*	545	*19*	△29	△1
令和13年	202	*7*	149	*6*	91	*3*	74	*3*	516	*19*	△29	0

・中学校の生徒数・学級数について、平成10年の1,276人・37学級から令和13年には516人（60%減）・19学級（49%減）と大きく減少します。

※児童数・生徒数は、平成31年(2019年)4月1日現在の数値に基づく推計による。
　クラス推計については、小学校1学年、2学年及び3学年が35人学級、それ以外が40人学級として、中学校1学年が35人学級、それ以外が40人学級として算出。

【3　県内の学校規模別児童生徒数・学級数・教員数の比較】

・県内の小中学校について、学級数別の学校数、児童生徒数別の学校数及び児童生徒数別の教員数・教員1人当たり児童生徒数を記載しています。（平成30年度）

（1）学級数別の学校数

小学校

	1～6クラス	7～11クラス	12～17クラス	18クラス～	合計	平均
富山県全体	74校	44校	44校	23校	185校	10．0クラス
うち小矢部市	2校	―	3校	―	5校	9．6クラス

中学校

	1～6クラス	7～11クラス	12～17クラス	18クラス～	合計	平均
富山県全体	28校	24校	19校	8校	79校	10．1クラス
うち小矢部市	3校	1校	―	―	4校	6．3クラス

（2）児童生徒数別の学校数

小学校

	230人未満	231～689人	690人～	平均
富山県全体	96校	82校	8校	271．5人
うち小矢部市	2校	3校	―	252．4人

中学校

	120人未満	121～359人	360人～	平均
富山県全体	12校	40校	29校	338．3人
うち小矢部市	1校	3校	―	181．3人

（3）児童生徒数別の教員数・教員1人当たり児童生徒数

小学校

	区分	230人未満	231～689人	690人～	平均
教員数	富山県	12．0人	23．9人	42．5人	18．6人
	小矢部市	11．5人	19．6人	―	16．2人
教員1人当たり児童数	富山県	10．1人	16．4人	19．7人	14．6人
	小矢部市	12．4人	16．8人	―	15．6人

・本市における教員数、教員1人当たり児童数の平均については、富山県平均を上回る。

中学校

	区分	120人未満	121～359人	360人～	平均
教員数	富山県	12．0人	20．2人	36．3人	25．3人
	小矢部市	13．0人	16．7人	―	15．8人
教員1人当たり生徒数	富山県	5．0人	12．3人	15．8人	13．7人
	小矢部市	8．7人	12．2人	―	11．2人

・本市における教員数、教員1人当たり生徒数の平均については、小学生とは逆に、富山県平均を下回る。

学校規模が大きくなると教員1人当たりに対する児童生徒数が多くなります。

※　小学校の230人未満は全学年が1クラスになる目安
　　231～689人は全学年が2クラスになる目安
　　690人以上は全学年が3クラスになる目安
※　中学校の120人未満は全学年が1クラスになる目安
　　121～359人は全学年が2クラスになる目安
　　360人以上は全学年が3クラスになる目安

【４ 学校規模によるメリットとデメリット（文部科学省手引きより）】

・ 学校の適正配置に関して都道府県・市町村が作成している計画等を参考に、文部科学省が作成したものを編集して記載しています。

（１）小規模化

	メリット	デメリット
学習面	・児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 ・学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ・１学年１学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。 ・運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ・中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ・児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりにくい。 ・部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。
生活面	・児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ・異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ・児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	・クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ・集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ・切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。 ・組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
学校運営面・財政面	・全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ・学校が一体となって活動しやすい。 ・施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	・教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ・学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ・一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ・教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。

		・子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。
その他	・保護者や地域社会との連携が図りやすい。	・ＰＴＡ活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなりやすい。

（２）大規模化

	メリット	デメリット
学習面	・集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。 ・運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ・中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。 ・児童・生徒数、教職員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりやすい。 ・様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。	・全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。 ・学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。
生活面	・クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ・切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。 ・学校全体での組織的な指導体制が組みやすい。	・学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。 ・全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
学校運営面・財政面	・教職員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。 ・学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 ・校務分掌を組織的に行いやすい。 ・出張、研修等に参加しやすい。 ・子ども一人あたりにかかる経費が小さくなりやすい。	・教職員相互の連絡調整が図りづらい。 ・特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。
その他	・ＰＴＡ活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。	・保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。

【5 学校施設の現況】

・学校別に、校舎・体育館・グランドなどの整備年度と規模（面積）を記載しています。

（1）市内小中学校校舎・体育館の整備経過と現況

	区分	面積	整備年	大規模改修実施年	経過年数(2018時点) 整備年以降	経過年数(2018時点) 大規模改修以降	耐震化	普通教室エアコン	プール
石動小学校	校　舎	6，336㎡	H25(2013)	未実施	5年		対応済	H28	市民プールを利用
	体育館	2，321㎡							
東部小学校	校　舎	3，466㎡	S35(1960)	H25年	58年	6年経過	対応済	H25	市民プールを利用
	体育館	1，370㎡							
大谷小学校	校　舎	3，882㎡	S41(1966)	H25年	52年	6年経過	対応済	H25	S44整備
	体育館	1，345㎡							
津沢小学校	校　舎	6，000㎡	S55(1980)	H17年	38年	14年経過	対応済	H27	S60整備
	体育館	1，271㎡							
蟹谷小学校	校　舎	4，157㎡	S54(1979)	H14年	39年	17年経過	対応済	H27	H1整備
	体育館	1，249㎡							
石動中学校	校　舎	8，761㎡	S59(1984)	未実施	34年		対応済	H23	無
	体育館	947㎡ 市民体育館も利用							
大谷中学校	校　舎	4，742㎡	S59(1984)	未実施	34年		対応済	H23	無
	体育館	1，077㎡							
津沢中学校	校　舎	5，039㎡	H3 (1991)	未実施	27年		対応済	H23	無
	体育館	1，516㎡							
蟹谷中学校	校　舎	4，970㎡	H1 (1989)	未実施	29年		対応済	H23	無
	体育館	1，297㎡							

※ 市内全小中学校は耐震化及び普通教室エアコン設置を完了していますが、市内全中学校は大規模改修が未実施です。

（2）市内小中学校敷地の現況

	整備年	面積
石動小学校	S41.H25	20，009㎡
東部小学校	S35	17，174㎡
大谷小学校	S41	32，325㎡
津沢小学校	S55	24，972㎡
蟹谷小学校	S53	43，228㎡

	整備年	面積
石動中学校	S24.S59	18，577㎡
大谷中学校	S57	41，481㎡
津沢中学校	S25.H3	38，183㎡
蟹谷中学校	H1	81，490㎡

【スクールバスの現況】

・通学バスの現況について、記載しています。（平成29年度）

（1）小学校の運行

学校名	台数	内訳	方面	利用人数		最も早い登校乗車時刻	最も遅い下校降車時刻	最長乗車時間
石動小学校	2	60人乗り 45人乗り	南谷	10	79	7時20分	16時57分	25分
			埴生(道林寺・長)	6		8時01分	16時57分	
			埴生(上記以外)	63		7時20分	16時57分	
東部小学校	(1)	45人乗り 石動小と併用	宮島	11	11	7時25分	16時13分	20分
大谷小学校	2	60人乗り 45人乗り	荒川	35	150	7時25分	15時50分	25分
			正得	54		7時20分	15時50分	
			松沢	29		7時20分	15時50分	
			西中・和沢	32		7時20分	15時25分	
津沢小学校	1	45人乗り	水島・下後亟	28	36	7時24分	16時21分	21分
			興法寺・下川崎	8		7時51分	15時54分	
蟹谷小学校	2	60人乗り 45人乗り	薮波	76	129	7時20分	16時13分	35分
			北蟹谷	53		7時11分	16時25分	
計	7	60人乗り 3台 45人乗り 4台			405			

※ 最も早い登校乗車時刻は午前7時11分、最も遅い下校降車時刻は16時57分、最長乗車時刻は35分間となっています。

（2）中学校の運行　（1．2月の冬季のみ運行、授業は冬季時間割で実施）

学校名	便数	方面	利用人数	最も早い登校乗車時刻	最も早い下校降車時刻	最も遅い下校降車時刻	最長乗車時間
石動中学校	5	スクールバス利用　蓮沼1便 市営バス利用　埴生1便、宮島1便 南谷1便、松沢1便	71	7時20分	17時05分	18時19分	33分
大谷中学校	3	スクールバス利用　荒川1便、正得1便 市営バス利用　松沢1便	90	7時55分	17時30分	17時47分	17分
津沢中学校	4	スクールバス利用　上･下後亟1便 南部1便 市営バス利用　水島1便、胡麻島1便	30	7時51分	17時09分	17時53分	25分
蟹谷中学校	3	スクールバス利用　薮波2便 北蟹谷1便	73	8時15分	17時20分	17時44分	24分
計	15	※小学校スクールバスを利用、 一部の便は市営バスも利用	264				

※ 最も早い登校乗車時刻は午前7時20分、最も遅い下校降車時刻は18時19分、最長乗車時刻は33分間となっています。最も早い下校乗車時刻は17時5分であり、部活動時間の短縮等により対応しています。

（3）スクールバスの運行経費

	年間総運行経費（2018予算）	1台当たり年間運行経費
小学校スクールバス	51，852千円	7，369千円
中学校冬季スクールバス(一部市営バス利用)	2，258千円	

※参考

スクールバス概算購入費	
60人乗り	27,000千円
45人乗り	16,000千円

【6 学校施設の維持管理費と財源】

・市内の小中学校施設（校舎・体育館）の維持管理費(光熱水費、施設保守費等)と財源（地方交付税算入額）を記載しています。（平成29年度）　（単位：千円）

区分	維持管理費（施設保守費等）	地方交付税算入額（＝国からの交付金）	差引き（＝市の負担額）
石動小学校	14,649	9,079	5,570
東部小学校	9,601	9,079	522
大谷小学校	11,090	9,079	2,011
津沢小学校	12,575	9,079	3,496
蟹谷小学校	11,531	9,079	2,452
計	59,446	45,395	14,051
平　均	11,889	9,079	2,810
石動中学校	11,460	8,594	2,866
大谷中学校	9,491	8,594	897
津沢中学校	9,262	8,594	668
蟹谷中学校	8,664	8,594	70
計	38,877	34,376	4,501
平　均	9,719	8,594	1,125
市　計	98,323	79,771	18,552

・国から1校につき、小学校では9，079千円、中学校では8，594千円が地方交付税として市に交付されるため、1校当たり平均、小学校では2，810千円／年、中学校では1，125千円／年が市として必要な負担額となっています。

【参考】教員の人件費は、国・県の全額負担となっております。

【7　学校施設の利用状況】

・学校開放、避難所指定、放課後児童クラブ等の学校施設の利用状況を記載しています。

市内小中学校施設の地域住民による利用状況							
	体育館等の学校開放の年間延べ利用団体数（H29実績）	避難所指定状況(平成31.3.31現在)					放課後児童クラブ定員（校舎内・校舎敷地内設置）
		地震	土砂	洪水	大規模火災	収容人数	
石動小学校	988団体／年	○	○	○	○	440人	60人
東部小学校	793団体／年	○	○	×	○	285人	35人
大谷小学校	1，124団体／年	○	○	○	○	320人	135人
津沢小学校	465団体／年	○	○	×	○	295人	35人
蟹谷小学校	949団体／年	○	○	○	○	285人	55人
石動中学校	525団体／年	○	○	○	○	310人	
大谷中学校	400団体／年	○	○	○	○	325人	
津沢中学校	468団体／年	○	○	○	○	395人	
蟹谷中学校	378団体／年	○	○	○	○	385人	
計	6，090団体／年					3,040人	320人
備考		・小矢部市の全施設の避難収容人数は14，885人、小中学校はそのうち約20%の割合					・大谷小には3つの児童クラブあり ・石動小と津沢小には民間の児童クラブを利用する児童あり

【8 中央教育審議会・スポーツ庁等の部活動に係る方針】

中央教育審議会「学校における働き方改革特別部会」中間まとめ（平成29年12月）～抜粋～

「将来的には、地域で部活動に代わりうる質の高い活動の機会を確保できる十分な体制を整える取り組みを進め、環境が整ったうえで、部活動を学校単位の取り組みから地域単位の取り組みにし、学校以外が担うことも積極的に進めるべきである」

「生徒のスポーツ機会が失われることのないよう、複数の学校による合同部活動や総合型地域スポーツクラブとの連携を積極的にすすめるべきである」

スポーツ庁「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（平成30年3月）～抜粋～

「長期的には、従来の学校単位での活動から一定規模の地域単位での活動も視野に入れた体制の構築が求められる」

文部科学省・スポーツ庁が、将来的に部活動を学校から地域へ移行すべきであるとしている理由と現状

主な理由として　①少子化で生徒がやりたいスポーツを学校の部活動だけで確保することが困難となりつつあること
②部活動が教員の負担を重くしている場合が多いこと、
③競技経験の無い教員よりも専門知識のある地域の指導者のほうが質の高い指導が期待できること

なお、小矢部市内でも、すでに一部の種目では「地域クラブ」に加入し活動しているケースがあります。

【※ 小中一貫教育の各形態・内容・状況等】

（1）小中一貫教育には、主に次の形態があります。

	小中一貫教育	
	義務教育学校	小中一貫型小・中学校
修業年限	9年間	小学校6年間＋中学校3年間
校　長	1人	小学校1人・中学校1人
教　頭	2人(内1人は総括担当副校長)	小学校1人・中学校1人
事務職員	2人	小学校1人・中学校1人
養護教諭	2人	小学校1人・中学校1人

（2）小中一貫教育の校舎の配置については、次の3つの形態があります。

区分	校舎一体型	校舎近接型	校舎分離型
形　態	小学校・中学校が一つの校舎に入る場合 小　中	小学校と中学校が同一敷地内にある。又は極めて近い距離にある場合 小　中	小学校と中学校がある程度離れている場合 小　中
利　点	・教職員の移動、児童生徒の交流が容易 ・小中学校間の連絡調整が行いやすい ・小中学校の施設を兼用することができ、コンパクトな学校施設が整備可能 例：小中共同特別教室(美術室、音楽室等) 小中共用図書室、グラウンドなど	・施設一体型と分離型の中間	・既存校舎を活かしながら実施できる
課　題	・校舎等を新設する場合は、新たな経費が必要	・施設一体型と分離型の中間	・教職員の移動、児童生徒の交流が比較的困難 ・小中学校間の連絡調整が比較的困難

国の主な支援メニュー

1. 小中一貫教育推進に伴う校舎等の新築増築費に対する補助率の引上げ　1／2（通常の新増築1／3）
2. 小中一貫教育の導入に伴う学校統廃合を行う場合の教員の加配
3. 小中一貫教育を実施する際の専科指導等のための教員の加配
4. 小中に同じスクールカウンセラーの配置

小中一貫教育が進められつつある背景・理由

小中一貫教育が推進されつつある背景・理由として、次のような教育環境の変化等に対応することが教育現場で求められているとされています。（「平成28年文部科学省「小中一貫した教育課程の編制・実線に関する手引き」・平成31年富山県教育委員会「富山の小中一貫教育」より）

・新学習指導要領に基づき2020年度から小学校で本格導入される英語教育やプログラミング教育等への効果的な対応
・小学校高学年段階における子どもの身体的発達・思春期の到来時期の早期化への対応
・いわゆる「中1ギャップ」等の生徒指導上の課題に対応
・小規模な小・中学校では体験できない集団規模の確保
・より多くの多様な教員が児童生徒に関わる体制の確保

小中一貫教育の具体的な例

・9年間を見通した教育課程（＝授業科目)の編制…例:英語の指導内容を9年間の中で入れ替える。
・6－3だけでなく、4－3－2や5－4など、学校段階の区切りを柔軟に設定する。
・小学校教員と中学校教員の相互乗り入れ授業の実施や小学校高学年での教科担任制を導入する。
・小中一貫した生徒指導の実施…同一の生徒指導教員や同一のスクールカウンセラーが担当する。
・小中合同授業や合同活動(合同運動会、合同学習発表会など)を実施する。
・小学校高学年が複数の中学校部活動に体験入部する。

県内・全国の状況

1. 県内の小中一貫教育推進の主な状況は次のとおりです。
①高岡市は、昨年度、市内全ての小中学校を「小中一貫型小・中学校」又は「義務教育学校」に再編する方針を発表しました。
②氷見市は平成25年に南部中学校・朝日丘小学校を「小中一貫型小・中学校（校舎一体型）」として開設しており、また、西部中学校を改修し、その校下の3小学校を含めた「義務教育学校（校舎一体型)」を開校する方向で準備を進めています。
③南砺市では、井口小学校・井口中学校を「義務教育学校（校舎隣接型)」とする準備が進められており、市内他校区の小中学校も小中一貫教育を推進する予定となっています。
④富山市では、「小中一貫教育」を目指し、平成20年度に芝園小・中学校が校舎一体型で整備されています。
2. 全国では平成29年度で301校が設置されており、今後、更に増加するものと見込まれています。